

2023年度

# 事業概要

南部地域療育センターそよ風

## 南部地域療育センターそよ風

### 通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくなる子ども  
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども  
どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども  
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども  
人とともに育ちあえる子ども

### 相談診療部「理念」

#### 「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる  
児童は、社会の一員として重んぜられる  
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

#### 生命と人権の尊重

- ・子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- ・子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

#### 家族や地域とともに

- ・子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- ・地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- ・社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

#### 療育の追求

- ・子どもが主体的に生きることを大切にします
- ・あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- ・豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

## はじめに

新型コロナ感染症は 2023 年 1 月後半から収束傾向となり、5 月 8 日から 5 類感染症となりました。行動制限もなくなり、街に人はあふれ、感染者数が毎日発表されなくなったため、収束した感があります。

モデルナ社が独自に新型コロナ患者数推移を新型コロナ・季節性インフルエンザ リアルタイム流行・疫学情報 (moderna-epi-report.jp) で毎日発表しています。

名古屋市でも市内の新型コロナウイルス発生状況を名古屋市：市内の新型コロナウイルス発生状況（暮らしの情報）(city.nagoya.jp) 毎週木曜日に発表しています。

それによると 5 月の連休後も今のところ（5 月 31 日）小康状態が続いていますが、4 月から徐々に増加傾向にあるようです。

5 月 23 日の読売新聞には中国では 5 月末には 1 週間当たり 4000 万人、6 月末には 6500 万人に達するという予測があるという記事があり、このまま収束するかどうかはわかりません。

前年のはじめに引き続き、今年もそよ風の事業概要とは関係のない話で恐縮ですが、2022 年 2 月に始まったロシアのウクライナに対する戦争はまだ続いています。

音楽家の坂本龍一氏が、2023 年 3 月 28 日に 71 歳で亡くなりました。

私は坂本さんのファンではありませんが、坂本さんはウクライナ戦争が始まった 2022 年、ウクライナのバイオリニスト、イリア・ボンダレンコと「Piece for Illia」という曲を作り、在日ウクライナ大使館は「坂本龍一先生、大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。」と「Piece for Illia」の映像 Ryuichi Sakamoto and Illia Bondarenko - Piece for Illia - YouTube と共にツイートしたそうです。

YouTube でウクライナの瓦礫となった町の中で、イリア・ボンダレンコがヴァイオリンを演奏している映像がみられます。

坂本龍一氏の追悼番組ではこの曲が流されることはなかったのですが、NHK スペシャル「ウクライナ大統領府 軍事侵攻・緊迫の 72 時間」のエンディングにも使われました。

また関係のない話でスペースを使ってしまいました。

今年は「地域支援・調整部門」も設置されることになりました。

初診前サポートも始まったばかりで、どういう形にしていくか、みんなで一緒に考えていきましょう。

今年もよろしくお願いします。

2023 年 5 月

南部地域療育センターそよ風

所長 外園芳美



# 目 次

<b>第 1 施設の概要</b> .....	1
1. 施設の目的 .....	1
2. 設置運営 .....	1
3. 施設構成 .....	1
4. 法人の経緯 .....	1
5. 建物の概要 .....	3
6. 事業の概要 .....	3
(1) 事業の種類 .....	3
(2) 担当地域 .....	3
(3) 組織・職員体制 .....	4
(4) 相談の流れ .....	5
<b>第 2 発達相談事業</b> .....	6
1. 新規相談 .....	6
2. 発達検査および発達相談 .....	11
(1) 新規相談児童の発達検査 .....	11
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談 .....	11
(3) 検査結果 .....	12
3. 初診前サポート事業 .....	13
4. 療育グループ .....	16
(1) 就園前グループ .....	16
(2) 就園前グループアフターのつどい .....	20
(3) 並行グループ .....	21
5. 保護者向け学習会 .....	25
(1) 年長児保護者向け学習会 .....	25
<b>第 3 医療事業</b> .....	26
1. 診 療 .....	26
(1) 小 児 科 .....	26
(2) 整 形 外 科 .....	31
(3) 耳 鼻 咽 喉 科 .....	33
(4) 精 神 科 .....	35
(5) 検 査 .....	36
(6) 診断書等発行 .....	36
2. 訓 練 .....	37
(1) 理学療法 (PT) .....	37
(2) 作業療法 (OT) .....	40
(3) 言語聴覚療法 (ST) .....	43
(4) 生活支援 .....	46
(5) 学 習 会 .....	48
(6) 音楽療法 (MT) .....	49

<b>第4 通園事業</b>	50
1. 施設概要	50
(1) 定員	50
(2) 対象児童	50
(3) クラス編成	50
(4) 通園形態	50
(5) 親子通園の種類	50
(6) 通園バス	50
2. 療育内容	50
(1) 子ども像	50
(2) 療育の視点	50
(3) 療育計画	52
3. 家族支援	57
4. 見守り一時支援	58
5. 2022年度のまとめ	59
6. 児童の状況	60
<b>第5 地域ケア事業</b>	62
1. 地域連絡調整	62
2. 巡回療育指導	64
3. 訪問療育指導	65
4. 通園部アフターケア	66
5. アフターケア	67
6. そよ風広場	67
7. 兄弟プログラム	68
8. 施設・プール開放	68
9. 地域啓発・ボランティア育成	68
<b>第6 児童デイサービス</b>	69
1. デイサービス ACT	69
2. デイサービスみどりそよ風	71
<b>第7 障害児相談支援事業所</b>	73
<b>第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業</b>	75
資料 センター利用者数の10年間の推移(2013年度～2022年度)	77
平面図	80

# 第1 施設の概要

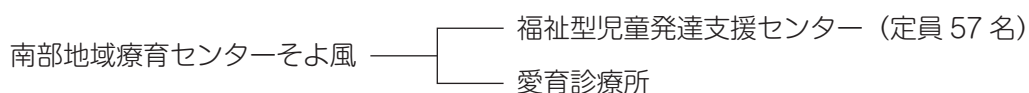
## 1 施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

## 2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

## 3 施設構成



- ・保険医療機関指定
- ・生活保護法医療機関指定
- ・公害医療機関指定
- ・指定自立支援医療医療機関指定
- ・運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
- ・障害児（者）リハビリテーション基準承認 等

## 4 法人の経緯

1961年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961年 4月	社会館保育部認可
1966年 4月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973年 4月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設、定員 30 人）認可
1987年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989年 7月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992年 2月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996年 4月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998年 10月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999年 4月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000年 3月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000年 9月	自立ホーム のどか、うらら開始（無認可）
2001年 4月	「南・緑生活支援センター のどか」開始
2002年 4月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002年 7月	障害児者地域生活支援センターみなみ開始

2003年 1月	「生活支援センターぴぼっと」開始
2003年 4月	支援費制度開始
	知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターあつた」開始
	知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターちよだ」開始
	児童デイサービスちよだ開始
	児童デイサービス ACT 開始 グループホーム「天歩」開始
2003年 6月	子どもセンターみどり開所 児童デイサービスみどり開始
2004年 6月	児童デイサービスあつた開始
2006年 4月	障害者自立支援法施行
2006年 6月	ケアホーム「ホームしゃかいかん」開始
2006年 10月	障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に
2006年 11月	名古屋キリスト教社会館第三次将来計画構想策定 - 21世紀福祉プラン改訂版-
2007年 4月	事業体系移行にともない生活介護事業開始 定員 20 名
2009年 8月	社会館「生活支援センターぴぼっと」竣工
2010年 7月	「名古屋キリスト教社会館 東館」開所
2010年 8月	東館 2 階 療育グループ専用室確保
2010年 9月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立 50 周年
2011年 3月	ケアホーム 5 か所目「いっぽ」開始
2012年 10月	相談支援事業所ぴぼっと開所
2012年 12月	みどり菜の花保育園開所
2013年 3月	子どもセンターとくしげ開始
2013年 5月	児童発達支援事業所 みどりそよ風 開所
2013年 7月	障害児相談支援事業所 そよ風
	障害児相談支援事業所 あつた
	障害児相談支援事業所 ちよだ
2013年 11月	名古屋キリスト教社会館第四次将来計画構想策定
2014年 4月	「社会館障害者基幹相談支援センター」(コンソーシアム) 開所
2014年 6月	「東部地域療育センターぽけっと」開所
2016年 4月	多世代交流西館開所。南部地域療育センターそよ風 通園部 定員 50 名に変更
2019年 4月	生活支援センターぴぼっと西館開所
2019年 7月	東部地域療育センターぽけっと 初診前サポートモデル事業開始
2020年 3月	名古屋キリスト教社会館第五次将来計画構想策定
2020年 7月	東部地域療育センターぽけっと 地域支援調整事業開始
2021年 7月	南部地域療育センターそよ風 初診前サポート事業開始
2021年 8月	医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業開始

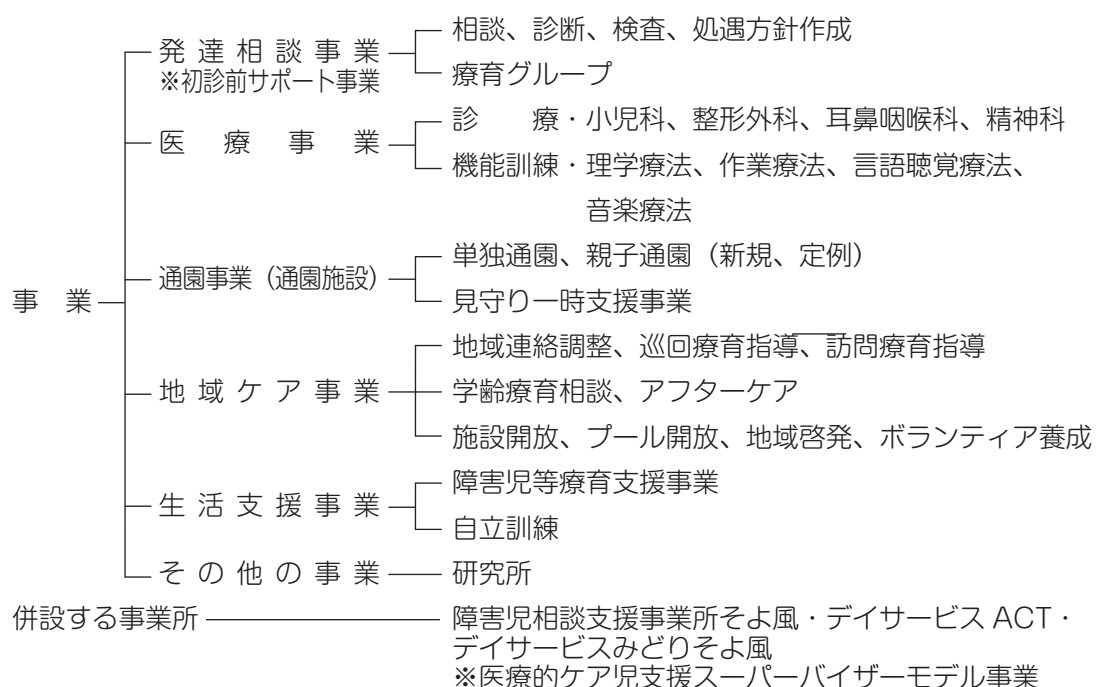


## 5 建物の概要

敷地面積	敷地 3,066.35㎡
構 造	本館：鉄筋コンクリート造 3 階建 東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階部分 西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部
規 模	建築面積 延べ床面積 本館：1,751㎡ 東館：236.47㎡ 西館：163.89㎡
併設施設	・菜の花保育園（定員 160 人） ・デイサービス友（定員 20 名） ・名南ユースセンター ACT ・デイサービス ACT（定員 10 名） ・小規模多機能つどい（定員 25 名） ・子育て支援センターなのはな

## 6 事業の概要

### (1) 事業の種類



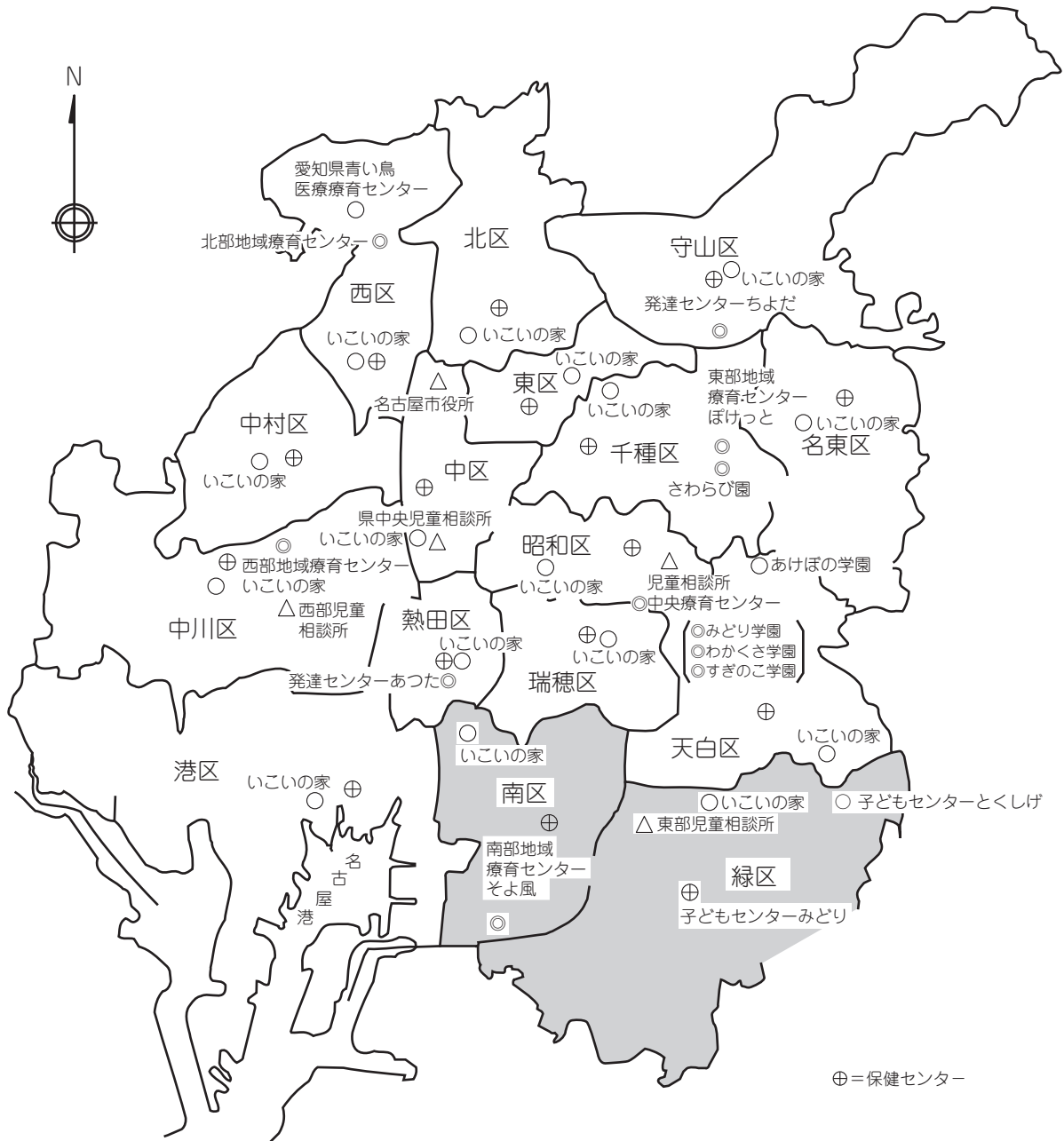
### (2) 担当地域

事業区分	担当地域
発達相談事業 医療事業 地域ケア事業 通園事業	南区、緑区

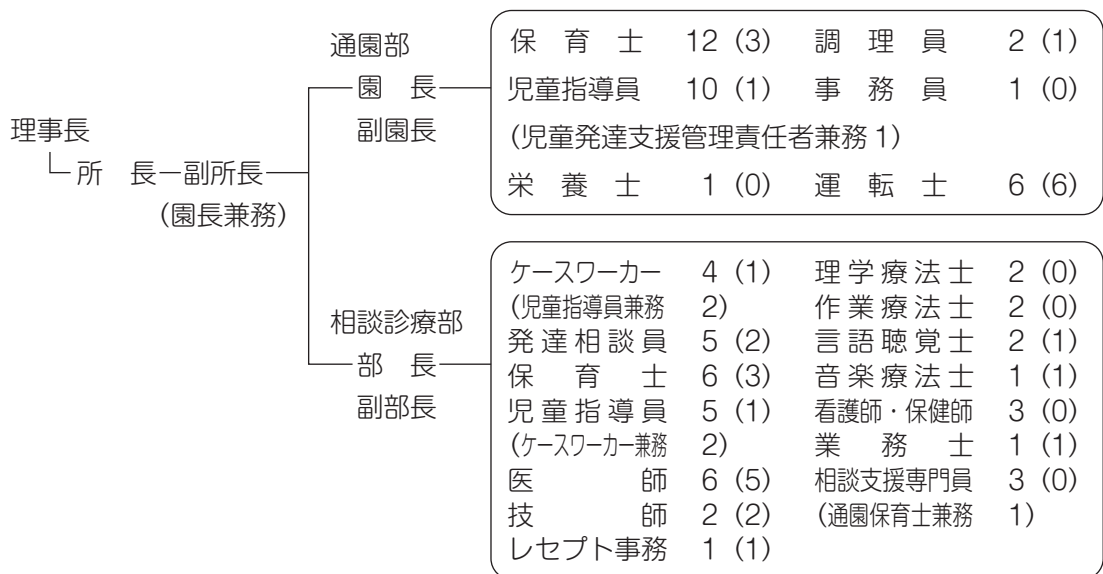
### 〈参考〉

#### 人口、面積（2022年10月1日）

		名古屋市	南区	緑区	2区合計
人口（人）		2,325,778	132,298 (5.7%)	248,334 (10.7%)	380,632 (16.4%)
児童人口	0～5歳	103,568	5,247 (5.1%)	13,594 (13.1%)	18,841 (18.2%)
	0～17歳	325,345	16,765 (5.2%)	44,004 (13.5%)	60,769 (18.7%)
面積（km <sup>2</sup> ）		326.45	18.47 (5.7%)	37.85 (11.6%)	56.32 (17.3%)

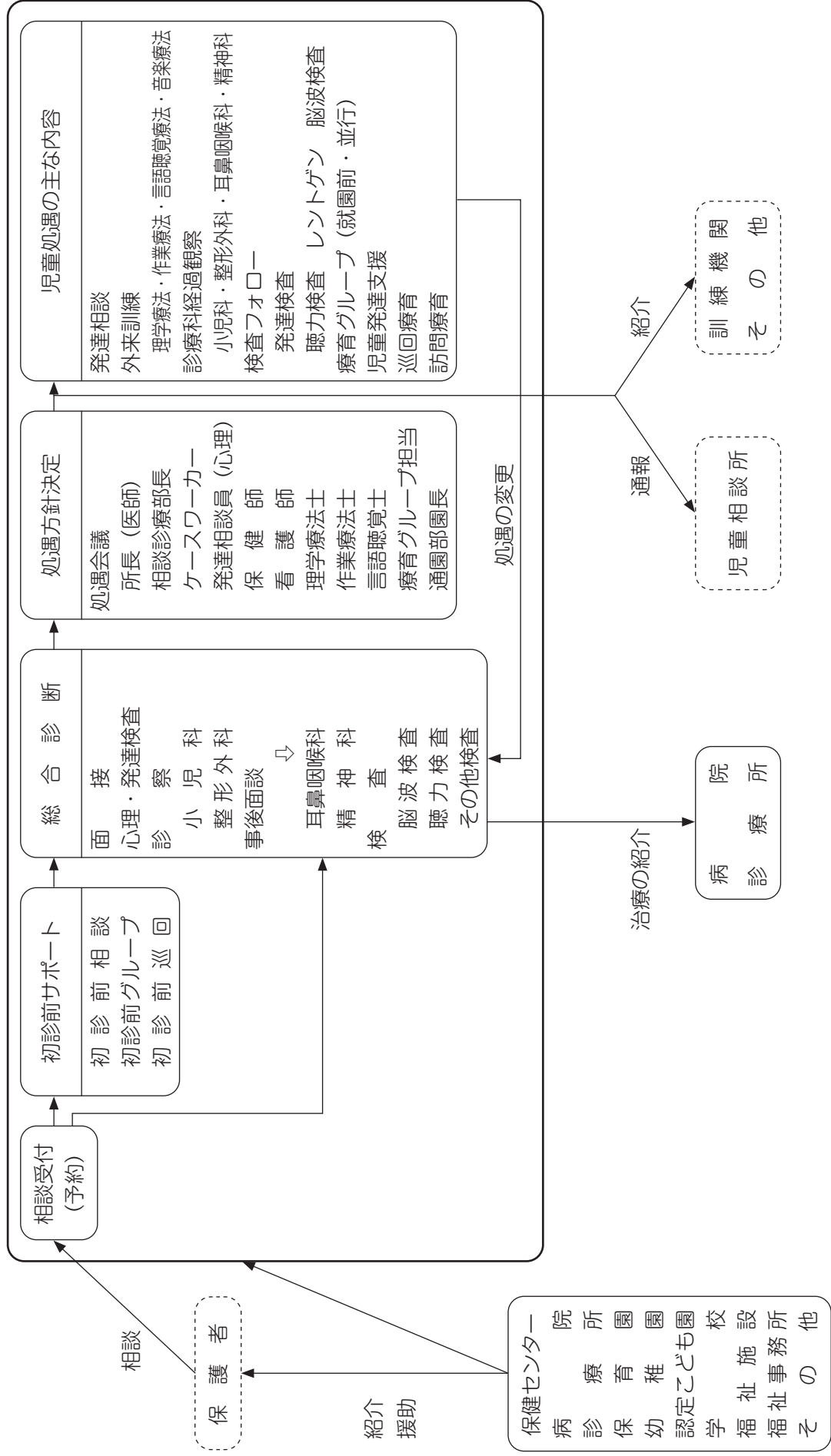


(3) 組織・職員体制〔( )内、嘱託職員・パート職員再掲〕(2022年4月1日現在)



(4) 相談の流れ

南部地域療育センターそよ風



## 第2 発達相談事業

### 1 新規相談

2022年度当センターの事業に関わる社会背景として3つが挙げられる。1つ目は新型コロナウイルス感染症の対応が感染を防ぎながら社会活動を進めていく形になってきたことである。2つ目は南区・緑区を含め名古屋市の就学前人口が減少していること、3つ目は保護者（特に母親）の就労により3歳未満児の保育園就園が増えていることである。これらは、母子保健や子育て支援・発達支援にも影響している。

今年度の新規相談希望者は425人で実数は昨年度よりも減っている。しかし、2018年度から2022年度の平均初診者数は435人で大きく減少はしていない。初診待機期間は1.2歳児初診、一般初診とも、1か月～2か月以内である。合診はこれまで年度による変動は少なく長年横ばいから微減であったが、今年度は減少した。

- ・新規相談は、1週間に通常初診を4ケース、1.2歳児初診を8ケース、合診は1ケース実施した。年間の初診受診者総数は425人。内訳は、通常初診174人(41%)、1.2歳児初診223人(52%)、合診28人(7%)である。昨年度は全初診470人に対して、通常初診176人(37%)、258人(55%)、合診36人(8%)である。通常初診の実数は減らず、1.2歳児初診と合診が減っている。
- ・区別状況では、緑区は2歳・3歳が減り、4歳・5歳が増えている。3歳未満児の就園が増えていることや、1歳6か月児健診事後教室がコロナによって3年間実施できず、要観察児のフォローを個別で行っていることの影響があるかもしれない。
- ・1.2歳児初診は、2022年度より、障害種別の“未決定”をなくして各診断区分に分類した。これは、初診前サポートや初診で、個別相談とあそび（集団）場面の2つの場面で子どもと保護者の様子を見ることができ、それを踏まえて初診ができるようになったためである。
- ・1.2歳児初診の再診数もまた、2021年度よりも、減少している。これは、初診前サポート、1.2歳児初診、発達相談という“相談できる場”が多くあることが影響している。医師の診察だけでなく、保護者が“相談できる”ということを大切にしているため、初診前サポート、発達相談などで相談をしつつ、様子をみながら、必要な時に再診につなげられるようにしている。
- ・合診は年々減少微減であったが、2022年度は30人を初めて下回った。受診者の内訳は肢体不自由児は少なく、重心児・医ケアが必要な子どもは0人。傾向としても、運動の遅れが主訴のお子さんが多い。医療的ケア児支援センターの設置や医療的ケア児保育支援事業が実施され、相談機関や保育の場がそよ風以外にも広がってきたことが影響しているかもしれない。

## 1.2 歳児診察後、診察に至ったケース数

(2022年度、単位：人)

初診年度	1.2歳児初診 総数	診 察 再 診 数						合計	%
		2017	2018	2019	2020	2021	2022		
2017	221	54	40	9	12	0	0	115	52.0
2018	213		69	34	17	14	0	134	62.9
2019	220			47	48	14	19	128	58.2
2020	235				116	48	18	182	77.4
2021	258					118	62	180	69.8
2022	223						61	61	27.4

表 2 - 1 区別状況

(2022年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
南 区	2	11	32	23	29	13	4	114	26.8
緑 区	6	43	85	77	42	37	10	300	70.6
港 区		2	3	3	1	2		11	2.6
計	8	56	120	103	72	52	14	425	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表 2 - 2 名古屋市中央療育センター・地域療育センターの相談歴

(2022年度、単位：人)

	緑 区	南 区	計
名古屋市中央療育センター	1	1	2
東部地域療育センター	1		1
北部地域療育センター	1		1
西部地域療育センター	1		1
計	4	1	5

表2-3 主訴（症状）

（2022年度、単位：人）

主 訴	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
言語発達		28	85	53	20	15	2	203	47.8
知的発達		1					1	2	0.5
運動発達		1						1	0.2
全体発達	8	18	2			2		30	7.1
性格行動		8	33	50	52	35	11	189	44.4
計	8	56	120	103	72	52	14	425	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-4 センターへの紹介経路

（2022年度、単位：人）

紹介機関	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
保健センター	4	34	83	55	18	11	4	209	49.2
医療機関	2	8	8	2	7	3		30	7.1
保育園		1	12	22	22	19	3	79	18.6
幼稚園			1	6	3	2		12	2.8
認定こども園		1	2	3	9	4	2	21	4.9
学 校							2	2	0.5
地域療育センター				2	1	2		5	1.2
児童福祉施設				2				2	0.5
いこいの家		2						2	0.5
知 人			1		1	1		3	0.7
家 族	1	4	3	4	3	5	2	22	5.2
そ の 他	1	6	10	7	8	5	1	38	8.9
計	8	56	120	103	72	52	14	425	100.0

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) その他はインターネットなどである。

表2-5 障害種別状況

(2022年度、単位：人)

障害種別	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
知的障害	3	3		5	1	4	3	19	4.5
自閉症		10	49	40	28	19	6	152	35.8
自閉症+知的障害		1	1	6	6		1	15	3.5
肢体+知的障害						1		1	0.2
肢体不自由	1							1	0.2
言語発達障害等		30	70	51	30	25	4	210	49.4
その他	4	12		1	5	2		24	5.6
適正					2	1		3	0.7
計	8	56	120	103	72	52	14	425	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) 言語発達障害には境界域、ADHD、吃音を含む。

表2-6 診断区別状況

(2022年度、単位：人)

診断区分	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
知的障害	ダウン症候群	3	2					5	1.2
	その他の症候群		1	1				2	0.5
	知的障害		1		5	2	4	3	15
自閉症		11	50	46	33	20	7	167	39.3
言語発達遅滞		29	59	32	10	6		136	32.0
構音障害			1	7	4	3		15	3.5
吃音					1	3		4	0.9
脳性麻痺+知的障害						1		1	0.2
脳性麻痺	1							1	0.2
中枢性協調障害					4	1		5	1.2
運動発達遅滞	3	12						15	3.5
境界域				5	4	2	2	13	3.1
多動症			9	7	11	9	2	38	8.9
正常域					2	1		3	0.7
筋ジストロフィー	1							1	0.2
その他				1	1	2		4	0.9
計	8	56	120	103	72	52	14	425	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 運動発達遅滞はその他より、新たに項目として設けた。

(3) 診断区分は複数の診断名がある場合、重なる1つの診断名が属する区分で計上した。

表 2 - 7 処遇方針作成状況

(2022 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童							計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
経 過 観 察		1	1		1	19	11	33
発 達 相 談	23	91	122	103	72	35	3	449
P T 訓 練	6	14	1		3			24
O T 訓 練				1	13	11	1	26
S T 訓 練				4	9	19	2	34
M T 訓 練				1				1
摂食機能訓練	1	3						4
就園前グループ	8	45	75	16	2			146
並行グループ				5	13	7	1	26
通園施設方向			4	5	3			12
他 機 関 紹 介		2	2	1	2			7
そ の 他	1					1		2
計	39	156	205	136	118	92	18	764

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) 件数は 2022 年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

(4) 「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

(5) 「その他」は、「家庭訪問」「薬物療法」である。

## 2022 年度 南区・緑区・港区通園希望者

区	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南 区		6	2	5			13
緑 区		4	16	3			23
港 区							
計		10	18	8			36

注) 年齢は 2022 年度の学年齢である。

進路先内訳 南部地域療育センターそよ風 24 人

発達センターあつた 7 人

待機児 5 人

表 2 - 8 処遇方針追加変更状況

(2022 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
経 過 観 察		1					1
発 達 相 談			2	1	1		4
P T 訓 練		1	1			1	3
O T 訓 練			1	8	34	11	54
S T 訓 練		1	1	9	39	22	72
M T 訓 練			1	1	2		4
摂食機能訓練	1	1	2				4
就園前グループ	3	14	52				69
並行グループ			1	11	16	7	35
通園施設方向		7	14	4			25
他 機 関 紹 介					1		1
計	4	25	75	34	93	41	272

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 件数は該当年度に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。



## 2 発達検査および発達相談

### (1) 新規相談児童の発達検査

表 2-9 初診の状況 (発達相談)

(2022 年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童						計
	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南 区	7	30	25	31	14	5	112
緑 区	29	79	82	47	38	11	286
港 区	1	3	3	1	2		10
合 計	37	112	110	79	54	16	408

注) 初診時の検査および初回受付診察後 (194)、合診後の初回相談を含む。  
年齢は初診時の満年齢である。

### (2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況 (延べ人数) は、前年度 1026 人、今年度 986 人

表 2-10 継続相談児童のフォロー状況

(2022 年度、単位：件)

区	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南 区		11	22	60	93	78	264
緑 区	2	29	129	176	184	190	710
港 区			1	5	2	4	12
合 計	2	40	152	241	279	272	986

注) 年齢は継続相談時の学年齢である。

・来所回数 (単位：人)

回数	人 数	割 合
1 回	678	81.7%
2 回	148	17.8%
3 回	4	0.5%
計	830	100.0%

実人数 830 人

### (3) 検査結果

表 2 - 11 年齢別検査結果

(2022 年度、単位：人)

検査数値	就 学 前 児 童						計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
20 以下		4	2	1	1	4	12	1.4
21 ~ 35			1	5	4	8	18	2.2
36 ~ 50		5	4	20	22	17	68	8.2
51 ~ 75	1	12	47	51	44	34	189	22.8
76 以上	1	14	67	121	160	180	543	65.4
計	2	35	121	198	231	243	830	100.0

注) 年齢は学年齢である。

表 2 - 12 障害別検査結果

(2022 年度、単位：人)

障害種別	1 度	2 度	3 度	4 度	非該当	計
	20 以下	21 ~ 35	36 ~ 50	51 ~ 75	76 以上	
知的障害	2	6	20	53	3	84
自閉症		10	43	110	262	425
言語発達障害等			1	16	173	190
肢体不自由			2	3	5	10
重心	10	3				13
聴覚				1	1	2
視覚						0
適正					4	4
その他(保健)				1	36	37
未決定			2	7	56	65
計	12	19	68	191	540	830

注) 愛護手帳は非該当だが、知的障害の診断の子どもが 3 人いる。

いずれも直近の発達検査で DQ がわずかに 75 を上回ったケースであるが、診断名は知的障害のままである。

### 3 初診前サポート事業

2021 年度 7 月からスタートした初診前サポート事業は 2 年目に入る。名古屋市の子ども発達支援体制に関する方針に基づき「相談の受付」とし、より気軽な相談としてセンターが担ってきた。

今年度初診前サポート数は 304 人。そのほとんどを初診の予約や初診前巡回へつなげている。(終了の 1 名は保護者の相談ニーズはなく、初診にくるかどうか園と相談するとして終了とした。)

2021 年度の初診前サポートの振り返りから、各学年齢のニーズや相談を受ける際のポイント、初診前巡回対象の整理などを行い、新たに 3.4 歳児の集団あそびの観察や個別相談のやり方の見直しを行った。初診前巡回は、保護者が園の様子がわからない、保護者自身の困り感がないなどがある場合、目的を明確化して実施している。5 歳児に関しては、療育センターが就学前までということを鑑み、初診前サポートを行わずに初診につなぐようにした。(図参照)

1.2 歳児初診 223 人中初診前サポートを経過した人数は 212 人 (95%)。一般初診 174 人中初診前サポート経過した人数は 92 人 (53%)。1.2 歳児初診対象は、初診前サポートにきた上で初診につながっている。

電話受付からの平均は、1.2 歳は 19.8 日、3 歳以上は 24.7 日、総平均は 20.3 日。電話受付から約一ヶ月以内に初診前サポートへつなげている。

表 2 - 13 インテーク実施状況 (年齢別) (2022 年度、単位：人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
就 園		32	65	52	38		187
未 就 園	6	57	52	2			117
合 計	6	89	117	54	38		304

表 2 - 14 インテーク実施状況 (月別) (2022 年度、単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
未就園児	4	14	9	7	8	10	12	11	6	9	10	17	117
就 園 児	3	9	14	14	14	14	19	18	22	25	20	15	187
計	7	23	23	21	22	24	31	29	28	34	30	32	304

表 2 - 15 区別状況

1.2 歳児

(2022 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	計
南 区	2	20	28	50
緑 区	4	66	88	158
港 区		3	1	4
計	6	89	117	212

3 歳児以上

(2022 年度、単位：人)

区	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区	21	12		33
緑 区	33	24		57
港 区		2		2
計	54	38		92

表 2 - 16 処遇方針 (2022 年度、単位：件)

処遇	合計
療育グループ	99
他機関紹介	
1.2 歳児初診	206
一般初診	94
終了	1
その他*	6
計	406

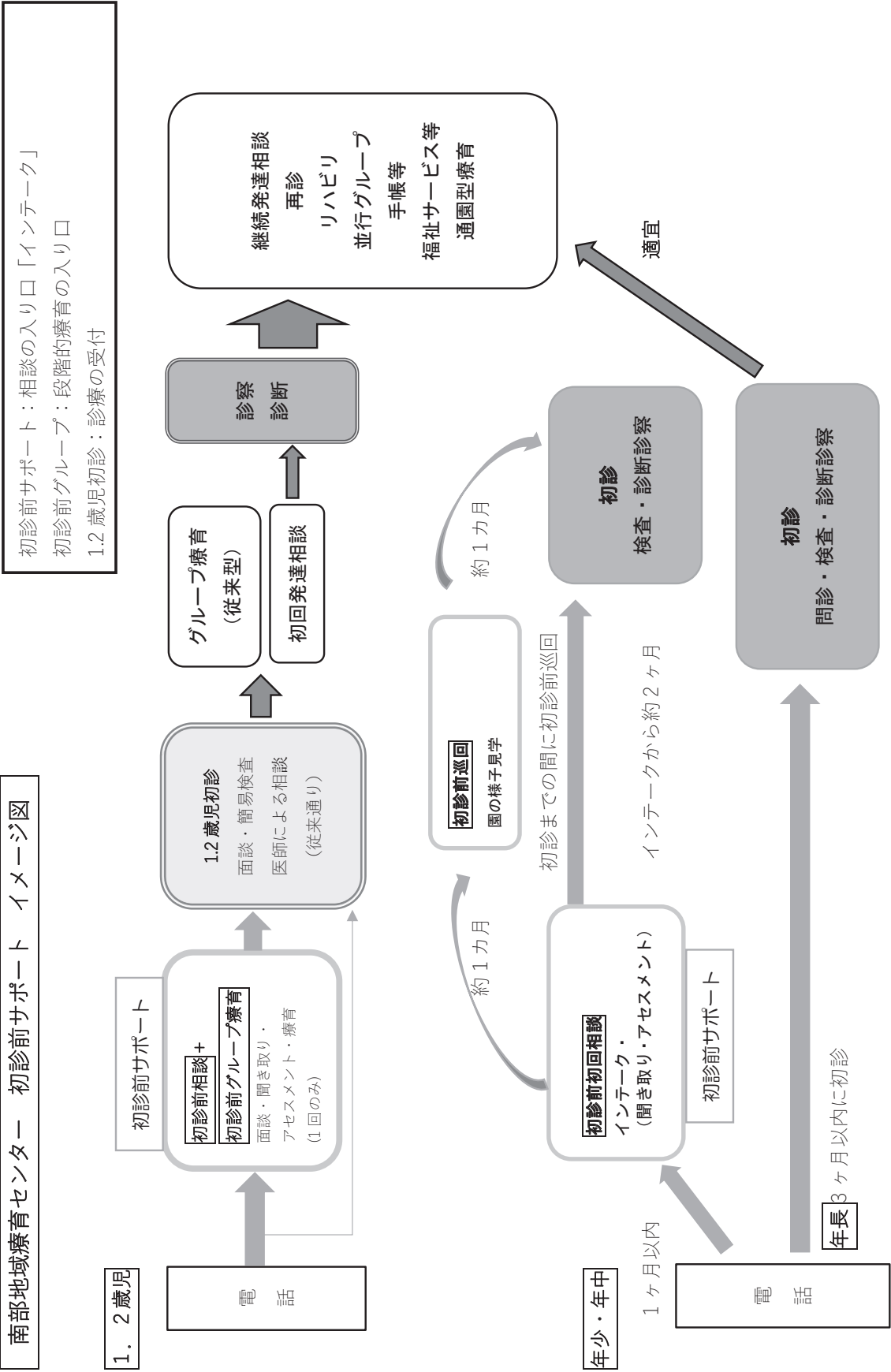
\*その他 初診前巡回

表 2 - 17 初診前巡回

(2022 年度、単位：件)

	保育園	幼稚園	認定こども園	計
3 歳児	4			4
4 歳児		1	1	2
計	4	1	1	6

南部地域療育センター 初診前サポート イメージ図



保育所等への巡回 施設支援 受診の有無問わず <地域支援・調整部門>

## 4 療育グループ

### (1) 就園前グループ

- ・0・1・2・3歳児の発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室16グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴよんぴよん教室6グループ、子どもセンターとくしげにてにこにこ教室7グループを実施した。
- ・2歳児グループは2020年度、2021年度はコロナ対策で1回の人数を減らし、隔週開催だったが、今年度は集団人数を可能な範囲で増やし、毎週開催にして療育内容を充実させた。療育経験を積み上げることができ、保護者支援も途切れずできるようになった。また2歳児の在園児は隔週参加とした。対象者は年々増加し、今年度は25人いた。(ぐんぐん9人、ぴよんぴよん11人、にこにこ5人)
- ・2歳児グループでは1月より軽食のとりくみをおこなった。ご飯は自宅から持参してもらい汁物をグループで用意した。豚汁、コンソメスープ、中華スープ、シチューと中身を変えて、食が広がりにくい子どもに対応した。
- ・母親の就労のため2歳児で就園する子どもが増えている。グループでも1歳児への対応が課題となっている。
- ・今年度のたまご教室は登録数が少なく、参加者が1～2名ということが続きあそびや集団がづくりにくいいため、9月末よりひよこさぎグループに統合して活動した。

表2-18 過去10年の就園前グループ実施人数

(2022年度、単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計	並行利用
2013年度	13	108 (6)	130 (37)	3 (2)	254 (45)	3
2014年度	13	90 (10)	152 (26)	3	258 (36)	8
2015年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)	244 (40)	19
2016年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)	227 (30)	17
2017年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)	203 (36)	19
2018年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)	203 (23)	17
2019年度	5	49 (2)	108 (12)	5	167 (14)	14
2020年度	4	74 (2)	119 (12)	5 (2)	202 (16)	21
2021年度	12	88 (5)	122 (23)	3	225 (28)	17
2022年度	16 (3)	67 (7)	108 (35)	5 (3)	196 (48)	25

注) ( ) 内は途中終了児 (再掲)

表2-19 就園前グループの実施状況

(2022年度、単位:人)

	グループ名	実施状況	年齢					職員体制
			0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計	
プレプレ教室 そよ風 東館	かば	月曜日			14 ( 5)	1	15 ( 5)	保育士2 指導員1 心理1
	らいおん	火曜日			13 ( 7)	1 ( 1)	14 ( 8)	保育士3 (パート2) 指導員1
	ぞう	火曜日隔週			5		5	保育士1 指導員3
	たまご教室	火曜日隔週	( 3)				0 ( 3)	保育士1 看護師1 PT1
	まめ	火曜日隔週	5	5 ( 1)			10 ( 1)	保育士1 OT1 PT1
	きりん	水曜日			15 ( 9)	1 ( 1)	16 (10)	保育士3 (パート1)
	くま	木曜日隔週		9 ( 1)			9 ( 1)	保育士2 指導員1
	りす	木曜日隔週 7月開始		8 ( 2)			8 ( 2)	保育士2 指導員1 心理1
	ひよこさぎ	金曜日	9	11	3 ( 1)		23 ( 1)	保育士1 指導員2 心理1 看護師1 PT1
	プレぐんぐん			9			9	保育士2 指導員3
プレびよんびよん教室 子どもセンターみどり	さくら	火曜日			11 ( 3)		11 ( 3)	保育士1 (パート1) 指導員3
	ちゅうりっぷ	水曜日隔週		7 ( 1)			7	保育士1 (パート1) 指導員2
	ひまわり	水曜日隔週 6月開始		10 ( 3)			10 ( 3)	保育士1 (パート1) 指導員2
	たんぼぼ	木曜日			13 ( 2)	1 ( 1)	14 ( 4)	指導員3 心理1
	すみれ	金曜日			13 ( 3)		13 ( 3)	保育士1 指導員2
	プレびよんびよん		1	2			3	保育士1 指導員3
プレプレ教室 子どもセンターへんげ	あしか	月曜日			11 ( 2)		11 ( 2)	保育士2 (パート2) 指導員2
	ぺんぎん	水曜日			10 ( 2)	1	11 ( 2)	保育士2 (パート2) 指導員2
	プレにこにこ		1	6			7	保育士2 指導員3
			16 ( 3)	67 ( 8)	108 (34)	5 ( 3)	196 (48)	

注) (1) ( ) は途中終了児 たまご教室途中終了の3人はひよこさぎグループへ移行した。  
 (2) 年度途中の移行児は最終グループで計上  
 (3) プレグループは新規児のみ計上

① 療育目標

- ・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
- ・親子あそびを通して保護者と一緒に楽しくあそぶ経験を積んでいく。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的な生活習慣の自立を家庭と共に考えあう。
- ・生活基盤や生活リズムの確立を通し、健康的な身体づくりをすすめる。
- ・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

② 日 課

子どもの24時間の生活リズムを家族と共に考え、日課づくりを行った。

ぐんぐん・ぴよんぴよん・にこにこ教室の日課

9:45	登室・健康チェック（コロナ対策として） 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操
10:30	排泄
10:40	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
11:00	おやつ
11:15	紙芝居・絵本の読み聞かせ さようなら

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室・健康チェック（コロナ対策として） 自由あそび・連絡ノート受け渡し 問診・健康チェック
10:20	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:35	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
11:00	おやつ
11:30	紙芝居・絵本の読み聞かせ さようなら

③ 年間行事

4月		10月	親子遠足
5月		11月	絵本の学習会
6月	就園学習会	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月のあそび
8月		2月	節分交流会
9月		3月	おわりのつどい



#### ④ グループ健康会議

ひよこ・うさぎグループを中心に、子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、小児科医師・看護師・保育士・指導員により、年2回健康会議を実施した。また、会議の中で健康や障害についての学習会を行った。

表2-20 就園前グループ進路先状況

(2022年度、単位：人)

進路先	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
通園施設		5	8	2	15
公立保育園		2	13		15
民間保育園	2	5	18		25
公立幼稚園			2		2
民間幼稚園			48	1	49
認定こども園		2	7		9
グループ継続	14	31			45
みどりそよ風		5			5
デイサービスACT		7		1	8
児童発達支援事業所		2			2
転居終了		4	7	1	12
経過良好終了		3	3		6
その他		1	2		3
計	16	67	108	5	196

表2-21 就園前グループ別状況

(2022年度、単位：人)

区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
南区	2	18	19	2	41
緑区	14	47	87	3	151
港区	0	2	2	0	4
計	16	67	108	5	196

表2-22 就園前グループ月別在籍人数

(2022年度、単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	0	80	89	97	109	111	110	118	128	130	138	140
月末の数	80	89	97	109	111	110	118	128	130	138	140	0
新入児の数	82	11	16	12	7	14	13	13	11	9	7	12
終了児数	2	2	8	1	5	15	5	3	9	1	5	152

注) (1) 4月の月初の数は開始した人数を示しているため、0としている。  
 (2) 3月の月末の数は全員終了としたため、0としている。

表2-23 就園前グループ月別参加人数(延べ数)

(2022年度、単位:件)

	グループ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ぐんぐん教室	かば	20	26	24	17	21	20	21	21	21	19	24	7	241
	らいおん	18	25	31	26	28	25	26	30	10	22	17	6	264
	ぞう								1	0	3	5		9
	たまご教室	2	3	3	2	5	1							16
	まめ	2	6	7	5	7	6	8	13	12	15	13	8	102
	きりん	23	23	29	26	28	26	23	19	15	9	16	6	243
	くま	5	4	8	4	5	12	6	4	10	6	11	7	82
	りす				1	2	9	12	10	6	9	4	5	58
	ひよこさぎ	22	25	31	26	10	23	24	27	19	26	37	11	281
	プレぐんぐん							1	1	3	1	5	5	16
ぴよんぴよん教室	さくら	17	16	20	19	14	15	19	23	17	19	18	5	202
	ちゅうりっぷ	3	5	7	6	9	11	11	12	6	11	10	5	96
	ひまわり			1	7	15	11	11	12	14	6	11	7	95
	たんぽぽ	7	9	24	18	15	18	23	17	25	24	20	9	209
	すみれ	17	17	25	25	17	26	21	24	12	25	27	7	243
	プレぴよんぴよん												7	7
にこにこ教室	あしか	12	20	22	16	22	17	15	19	20	20	30	6	219
	ぺんぎん	17	18	31	16	23	20	23	21	21	19	21	7	237
	プレにこにこ												7	7
	計	165	197	263	214	221	240	244	254	211	234	269	115	2627

## (2) 就園前グループアフターのつどい

2021年度就園前グループを終了した保護者を対象に交流会を実施した。延べ11名が参加した。グループ終了後の親子の状況を捉え、園生活の状況の共有、保護者同士の交流をおこなった。

## アフターのつどい参加状況

グループ名		日程	場所	参加人数
ぐんぐん教室	かば A	2022/6/9	そよ風	2人
	らいおん A	2022/6/13	そよ風	3人
	らいおん B	2022/6/23	そよ風	2人
ぴよんぴよん教室	さくら A	2022/6/15	子どもセンターみどり	2人
	こすもす A	2022/6/13	子どもセンターみどり	2人

### (3) 並行グループ

- ・ 並行グループ（さんさん教室）は2週に1度のグループをそよ風東館にて7グループ実施した。子どもセンターとくしげでは月1回土曜日に通年で実施した。合計8グループ実施した。
- ・ グループ編成は年齢、発達状況、家庭状況を考慮した。

#### ① 並行グループの実施状況

活動時間はそよ風では14:30～16:00、子どもセンターとくしげでは10:00～11:30

表2-24 並行グループの実施状況

(2022年度、単位:人)

	実施状況	対象児の障害	年齢				職員体制	
			3歳児	4歳児	5歳児	計		
そよ風東館	(4～9月) 前半期	ひこうき (第1・3・5火曜)		2	5	7	保育士1 指導員2 心理1	
		しんかんせん (第2・4火曜)		4	3	7	保育士1 指導員3	
		ろけっと (第1・3・5木曜)	ASD DCD ADHD MR 吃音		5	3	8	保育士1 指導員3 心理1
		ばす (第2・4木曜)	ASD MR	3	4		7	保育士1 指導員2 心理1
	(10～3月) 後半期	へりこぶたー (第1・3・5火曜)	ASD ADHD	5	2		7	指導員3 心理1
		ひこうき (第2・4火曜)	ASD ADHD MR	0	5	3	8	保育士2 指導員1 心理1
		よっと (第1・3・5木曜)	ASD MR ADHD	5	3		8	保育士2 指導員1 心理1
子どもセンター	(5～3月) 通年	きしゃ (月1回土曜)		3	5	8	保育士2 指導員4	
			13	28	19	60		

#### ② 療育目標

- ・ 取り組みを通して達成感を味わい、自信につなげていく。
- ・ 身体や手先の使い方を知っていく。
- ・ 友だちとあそぶ楽しさを知る。

### ③ 日 課

各グループの状況やとりくみの内容によって日課を変えている。  
 子どもセンターとくしげのさんさん教室の時間は（ ）内。

#### さんさん教室の日課

14:30 (10:00)	登室・健康チェック (コロナ対策として) 自由遊び(描画、パズルなど) 連絡ノート受け渡し
15:00 (10:30)	こんにちはのつどい スケジュール確認 呼名 とりくみ① おやつ とりくみ② おわりのつどい シール貼り
16:00 (11:30)	さようなら

表 2 - 25 並行グループ障害種別状況

(2022 年度、単位：人)

障害種別	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
知的障害		1		1
自閉症+知的障害	1	4	1	6
自閉症	8	19	9	36
言語発達障害等	3	4	5	12
その他保健			3	3
未決定	1		1	2
計	13	28	19	60

表 2 - 26 並行グループ区別状況

(2022 年度、単位：人)

区別	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南区	2	8	5	15
緑区	11	19	13	43
港区		1	1	2
計	13	28	19	60

表 2 - 27 並行グループ在籍児の所属園

(2022 年度、単位：人)

区 分	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
公 立 保 育 園			1	1
民 間 保 育 園	6	12	8	26
公 立 幼 稚 園			1	1
民 間 幼 稚 園	4	7	4	15
認 定 子 ども 園	2	9	5	16
そ の 他	1			1
計	13	28	19	60

表 2 - 28 並行グループ月別在籍人数

(2022 年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 初 の 数	0	25	36	37	37	37	15	28	28	27	27	27
月 末 の 数	25	36	37	37	37	15	28	28	27	27	27	0
新 入 児 の 数	25	11	1	0	0	7	15	0	1	0	0	0
終 了 児	0	0	0	0	0	29	2	0	2	0	0	27

表 2 - 29 並行グループ月別参加人数 (延べ数)

(2022 年度、単位：件)

	グループ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
前半	ひ こ う き	6	11	10	12	7	4							50
	しんかんせん	7	11	8	10	8	4							48
	ろ け っ と	7	6	18	7	13	8							59
	ば す	8	10	11	9	6	6							50
後半	へりこぶたー							11	11	11	11	12		56
	よ っ と						7	12	5	10	4	10	6	54
	ひ こ う き							12	10	8	6	4	6	46
通年	き し ゃ		8	7	4		4	7	5	6	6	4	6	57
	計	28	46	54	42	34	33	42	31	35	27	30	18	420

表2-30 並行グループ終了状況

(2022年度、単位：人)

区 分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小学校	通 常 学 級			16	16
	特別支援学級・学校			2	2
グ ル ー プ 継 続		3	8		11
通 園 施 設		1			1
転 居			1		1
終 了		9	19		28
不 明				1	1
計		13	28	19	60

## ④ グループ見学会

- ・各グループで見学会を行い、保育園が10ヶ園、幼稚園が4ヶ園、認定こども園が10園の参加があった。
- ・グループのとりくみ終了後保護者と参加した園の先生、グループスタッフで懇談する時間を設けた。

表2-31 グループ見学会参加状況

	グループ名		日時	参加人数
そよ風東館	ひこうき	前半期 (4～9月)	2022年7月5日	3ヶ園3名
	しんかんせん		2022年6月28日	1ヶ園1名
			2022年7月12日	1ヶ園1名
	ろけっと	2022年7月26日	2ヶ園2名	
		2022年6月30日	1ヶ園1名	
	ばす	2022年7月21日	2ヶ園2名	
		2022年6月9日	1ヶ園1名	
2022年6月23日		1ヶ園1名		
へりこぶたー	後半期 (10月～3月)	2022年7月14日	1ヶ園1名	
		2022年12月6日	1ヶ園1名	
		2022年12月20日	1ヶ園1名	
よっと	2023年1月17日	1ヶ園1名		
	2022年12月1日	1ヶ園1名		
	2022年12月15日	2ヶ園2名		
ひこうき	2023年1月19日	1ヶ園1名		
	なし			
ハイパーワールド	きしや	通年 (5月～3月)	2022年9月17日 2022年10月22日	1ヶ園1名 2ヶ園2名

注) 複数回来所の園あり 表内は延べ園数

## 5 保護者向け学習会

### (1) 年長児保護者向け学習会

表 2 - 32 就学前の保護者を対象に学習会を実施した

月日	内容	講師	参加人数	対象
2022.6.2	就学講演会	教育センター 和田先生	参加 73 人 (2019 年参加 90 名)	年長児保護者

- ・会場は 2019 年度と同じ名古屋市瑞穂文化小劇場で行った
- ・2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発出のため中止となった

## 第3 医療事業

### 1 診療

小児科（常勤1名、非常勤3名）、整形外科（非常勤1名、週2回）、耳鼻咽喉科（非常勤1名、週1回）、精神科（非常勤1名、月1回）による診療を行っている。看護師は相談診療部に常勤2名と通園部に常勤1名である。保健師は常勤2名で、ケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は週4日、再診は週4日、通園児（そよ風・あつた）と保育園児の健診等を行っている。

検査としては、聴力検査週1回、X線検査月2回、脳波検査と聴性脳幹反応は必要時に実施している。

#### (1) 小児科

##### ① 新規患者について

- ・初診前サポート事業の開始により、初診の方法は以下の通りである。
  - a. 一般初診：ケースワーカーによる問診、発達相談員による発達検査を経て、小児科医の診察。3,4歳児は、初診の前に初診前サポートあり。（初診前サポート事業参照）
  - b. 1,2歳児初診：初診前サポートでの集団遊びと面談の後、小児科医の診察
  - c. 合診：小児科医、整形外科医の診察
- ・新規患者数（表2-1）；昨年と比べ減少している。（470→425）
- ・初診数から言語発達遅滞等数を除くと自閉症、自閉症+知的障害の割合は39.3%、言語発達障害等の割合は49.4%であった。

##### ②小児科発達外来再診（表3-1）

- ・昨年と比べて延べ人数は増加している。一方、実人数は減少し、1人当たりの受診回数が1.2→1.3と増えている。また、4,5歳児が増加しており、特に4歳児の増加が顕著である。

##### ③小児科一般外来（表3-2）

- ・2020年度から減少し、以前の6割程度になっている。これはかかりつけ医を持つことを推奨したことによる。

##### ④長期投薬数（表3-3）

- ・小児期の神経発達症に伴う入眠困難等の児への内服治療が12名ある。

##### ⑤小児科定期診察（表3-4、3-5）

- ・通園児

昨年と比べて延べ人数は38人から29人、実人数は20人から18人で、ともに減少している。退院後の診察や熱性けいれんなどを起こした児など、必要な児をピックアップして必要なタイミングで診察を行ったことによる。

- ・たまご教室・ひよこさぎグループ・あいあい組

グループ所属の児に、1人当たり年1～2回の定期診察を行った。

##### ⑥早期療育会議

- ・CW、看護師、PT、療育グループ職員、相談支援専門員により月2回開催。今年度から通園園長と通園の看護師が参加。

合診後の低年齢児の状況を把握し、支援の方針を検討する。



療育グループへの参加、訪問指導、制度利用の相談に応じている。

#### ⑦通園部の健康管理

- ・健康学習会（家族向けに季節の病気、発達や障害などの学習）、毎日の健康チェック、重症児の医療的ケア、健康診断（年2回）を行い、必要のある児には定期診察、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科受診を勧めている。

#### ⑧健康会議

- ・診療部と通園部・療育グループで、子どもの健康の理解を進め、諸行事（宿泊療育など）のときの注意点、単独保育への移行や通園バス乗車の問題点などについて話し合い、意思統一している。

#### ⑨看護師の業務

- (a) 診療や健康診断介助、健康診断報告に関する業務など。
- (b) 通園部での健康管理：健康観察と医療的ケア或いはその指導、援助。  
2022年度は医療的ケアを必要とする児は2名であった。相談診療部の看護師も、健康チェックのため巡回した。
- (c) 訪問療育指導
- (d) 0.1歳児グループ療育

#### ⑩その他

- ・コロナ対策のため、利用者およびその家族周辺の健康状態を看護師保健師で聞き取り、かぜ症状が強くみられる場合は利用を延期していただく等、感染予防に努めながら外来運営を行った。

表3-1 小児科発達外来再診

(2022年度、単位：件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	10 (7)	3 (2)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	9 (6)				29 (22)	3.6 (3.5)
	その他の症候群		5 (2)	5 (3)		3 (2)	1 (1)				14 (8)	1.7 (1.3)
	小頭症						1 (1)				1 (1)	0.1 (0.2)
	水頭症										0 (0)	0.0 (0.0)
	てんかん			1 (1)		1 (1)					2 (2)	0.2 (0.3)
	知的障害	2 (2)	19 (10)	13 (13)	10 (10)	10 (9)	14 (10)				68 (54)	8.5 (8.5)
自閉症	1 (1)	30 (20)	68 (56)	95 (74)	134 (103)	132 (104)	7 (6)			467 (364)	58.1 (57.2)	
言語発達遅滞		12 (11)	34 (29)	16 (13)	16 (15)	11 (10)				89 (78)	11.1 (12.3)	
構音障害				4 (3)	3 (3)	2 (2)				9 (8)	1.1 (1.3)	
吃音						2 (2)				2 (2)	0.2 (0.3)	
知的障害+脳性麻痺										0 (0)	0.0 (0.0)	
脳性麻痺+知的障害			2 (2)			1 (1)				3 (3)	0.4 (0.5)	
脳性麻痺	1 (1)	1 (1)	3 (2)							5 (4)	0.6 (0.6)	
急性脳症後遺症				2 (2)						2 (2)	0.2 (0.3)	
中枢性協調障害				5 (2)	1 (1)	12 (10)	2 (2)			20 (15)	2.5 (2.4)	
運動発達遅滞	13 (9)	4 (1)	1 (1)							18 (11)	2.2 (1.7)	
多動症		3 (2)		3 (3)	3 (3)	7 (6)	1 (1)			17 (15)	2.1 (2.4)	
正常域			2 (1)		1 (1)	2 (2)				5 (4)	0.6 (0.6)	
境界域				5 (4)	9 (7)	18 (16)				32 (27)	4.0 (4.2)	
難聴						1 (1)				1 (1)	0.1 (0.2)	
整形外科疾患										0 (0)	0.0 (0.0)	
筋ジストロフィー	1 (1)									1 (1)	0.1 (0.2)	
その他			4 (4)	3 (2)	3 (3)	9 (5)				19 (14)	2.4 (2.2)	
合計	28 (21)	77 (49)	135 (114)	145 (115)	187 (151)	222 (177)	10 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	804 (636)	100 (100)

注) (1) ( ) は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-2 小児科一般外来

(2022年度、単位：件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群					7 (3)					7 (3)	10.4 (10.0)
	その他の症候群					4 (1)					4 (1)	6.0 (3.3)
	てんかん										0 (0)	0.0 (0.0)
	知的障害		1 (1)	3 (2)	2 (1)	1 (1)	3 (1)				10 (6)	14.9 (20.0)
	水頭症										0 (0)	0.0 (0.0)
自閉症				11 (8)	24 (5)	7 (3)	1 (1)				43 (17)	64.2 (56.7)
言語発達遅滞						1 (1)					1 (1)	1.5 (3.3)
知的障害+脳性麻痺					1 (1)						1 (1)	1.5 (3.3)
脳性麻痺+知的障害											0 (0)	0.0 (0.0)
脳性麻痺										1 (1)	1 (1)	1.5 (3.3)
合計	0 (0)	1 (1)	3 (2)	13 (9)	30 (8)	18 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	67 (30)	100 (100)

注) (1) ( ) は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 長期投薬外来の受診児も含む。

表3-3 長期投薬

(2022年度、単位：人)

診断名	学齢区分						
	0～2歳	3～5歳	低学年	高学年	中学生	その他	計
知的障害・自閉症		5	1		1		7
自閉症		4					4
A D H D							0
知的障害/知的障害・脳性麻痺							0
その他		1					1
合計	0	10	1	0	1	0	12

注) 管理数の内訳は、継続4名、新規8名。

次年度への継続児は2名。精神科へ移行が1名。終了は9名(うち5名は転院)。

表3-4 小児科定期診察（通園児）

（2022年度、単位：件）

診断区分		就学前児童					計	%	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳			5歳
知的障害	ダウン症候群						2 (2)	2 (2)	6.9 (11.1)
	その他の症候群				4 (2)	1 (1)		5 (3)	17.2 (16.7)
	てんかん			3 (1)			2 (1)	5 (2)	17.2 (11.1)
	知的障害				1 (1)	4 (2)		5 (3)	17.2 (16.7)
	その他の症候群					1 (1)		1 (1)	3.4 (5.6)
	脳性麻痺＋知的障害						1 (1)	1 (1)	3.4 (5.6)
	知的障害＋脳性麻痺					3 (1)		3 (1)	10.3 (5.6)
	自閉症				4 (3)		2 (1)	6 (4)	20.7 (22.2)
	急性脳症後遺症						1 (1)	1 (1)	3.4 (5.6)
	合計	0 (0)	0 (0)	3 (1)	9 (6)	8 (4)	8 (6)	29 (18)	100 (100)

注) (1) ( ) は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 障害種別では「重心」となる児が7名である。

(4) 診断区分は自閉症や知的障害となっているが、その他症候群・てんかんなどの疾患を重複している児を含む。

表3-5 小児科定期診察（療育グループ等）

（2022年度、単位：件）

グループ名	0歳	1歳	2歳	計
たまご教室	3 (3)			3 (3)
ひよこ・うさぎG	11 (7)	20 (12)	5 (3)	36 (22)
あいあい組			10 (5)	10 (5)

注) (1) ( ) は実人数である。

(2) 年齢は学年齢である。

(3) 定期診察は、小児科再診と兼ねて実施した。

## (2) 整形外科

- ・新規受診者数は43名で微増。
- ・整形外科来全体の実人数184名のうち、通園児は21名であった。
- ・今年度、終了数15名（歩行安定、高校卒業児、転院）、PTオーダーは21名（合診から16名、初診から1名、経過フォロー児から4名）、OTオーダーは0名であった。

表3-6 整形外科診断区別状況（新規）

（2022年度、単位：人）

区 分	就学前児童							小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害			1			1						2	4.7
ダウン症候群	5											5	11.6
脳性麻痺	1					1						2	4.7
脳性運動障害												0	0.0
運動発達遅滞	15	5										20	46.5
神経・筋疾患	1				1							2	4.7
骨・関節疾患												0	0.0
後天性要因による運動障害												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
正 常		1										1	2.3
そ の 他		2	4	2	1	2						11	25.6
合 計	22	8	5	2	2	4	0	0	0	0	0	43	100.0

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) その他には、内転足・捻挫・尖足・外反扁平足等を含む。

表3-7 整形外科診断区別状況（装具外来延べ人数）

（2022年度、単位：件）

区 分	就学前児童							小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年					
知的障害			2			1						3	1.1
ダウン症候群		2	4	3	4	6	5	10	8	2		44	15.6
脳性麻痺		2	8	9	7	7	38	10	24	10		115	40.8
脳性運動障害		6	4	1	2	3	14	2	1			33	11.7
運動発達遅滞		8	13	5			1					27	9.6
神経・筋疾患												0	0.0
骨・関節疾患												0	0.0
後天性要因による運動障害									3			3	1.1
二分脊椎												0	0.0
その他の先天性障害		5		2	1		7	2	3			20	7.1
そ の 他		2	11	7	4	9	3	1				37	13.1
合 計	0	25	42	27	18	26	68	25	39	12		282	100.0

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) その他の先天性障害には、先天性心疾患・水頭症・染色体異常・症候群・てんかん等を含む。

(3) その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足・捻挫・内反足等である。

(4) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

表 3 - 8 整形外科診断区別状況（定期診察延べ人数）

（2022 年度、単位：件）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知 的 障 害			1	1		1					3	1.5
ダウ ン 症 候 群	6	4	4	5	5	5	2	1	8		40	19.7
脳 性 麻 痺	1	4	8	1	3	1	4	6		8	36	17.7
脳 性 運 動 障 害		5	1	1		4	5	1	2		19	9.4
運 動 発 達 遅 滞	15	21	6	1	1		1				45	22.2
神 経 ・ 筋 疾 患	1										1	0.5
骨 ・ 関 節 疾 患					2						2	1.0
後天性要因による運動障害		3							4		7	3.4
二 分 脊 椎											0	0.0
その他の先天性障害		2		3	5			2			12	5.9
そ の 他		4	12	3	8	5	4	1	1		38	18.7
合 計	23	43	32	15	24	16	16	11	15	8	203	100.0

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) その他の先天性障害には、先天性心疾患・水頭症・染色体異常・症候群・てんかん等を含む。

(3) その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足・捻挫・内反足等である。

(4) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

### (3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、疾患の早期発見・早期治療、聴覚の管理である。
- ・今年度当科を受診した患児の総数は241名であった。終了167名、そのうち新規での終了は122名であった。
- ・昨年に比し、新規数が1.5倍に増加。継続の人数は微減だが、のべ人数は昨年比2/3で、1回で終了となった児が多かったと言える。  
新規における言語発達遅滞の占める割合が87%で横ばい、構音障害9.4%で微増した。
- ・その他は、舌小帯短縮・耳介挫創・花粉症である
- ・正しい聴覚検査の結果を得る為、耳垢除去も必要である。耳垢除去は新規では109人、継続では31件に行った。
- ・通園児の受診数は、9名であった。
- ・自覚的聴力検査を実施するも良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノメトリー、OAE共に実施できなかった児に対して、ABRまたは3歳児健診前後の再検を行うようにしている。

表3-9 耳鼻咽喉科診断区分別状況（新規）

（2022年度、単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴の疑い						1	1					2	1.1
難聴												0	0.0
滲出性中耳炎												0	0.0
耳垢塞栓												0	0.0
言語発達遅滞		30	84	41			1					156	86.7
粘膜下口蓋裂					1							1	0.6
構音障害				4	7	5	1					17	9.4
正常												0	0.0
その他			1		1	1	1					4	2.2
計	0	30	85	45	9	7	4	0	0	0	0	180	100

注) 年齢は満年齢である。

表3-10 耳鼻咽喉科診断区分別状況（継続）

（2022年度、単位：件）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
難聴の疑い			1								1	1.2
難聴											0	0.0
滲出性中耳炎						5					5	5.9
耳垢塞栓	3			2	1	3	2	1	6	1	19	22.4
言語発達遅滞		8	29	9		5					51	60.0
鼻咽腔疾患							1		6		7	8.2
構音障害						2					2	2.4
その他											0	0.0
計	3	8	30	11	1	15	3	1	12	1	85	100
実人数	1	8	28	9	1	7	2	1	3	1	61	

注) 年齢は学年齢である。

\*その他・その他の耳鼻科疾患として、正常・外耳道炎・外耳湿疹・睡眠時無呼吸症候群疑・チュービングチェック・急性鼻咽頭炎があった。

表3-11 聴力検査

（2022年度、単位：件）

区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
自覚的聴力検査	BOA		3	1		1						5
	COR		28	93	51	2		4				178
	Peep-Show			1	12	9	5	2				29
	標準純音聴力検査						2	2				4
	プレイオーディオ											0
合計	0	31	95	63	12	7	8	0	0	0	0	216

注) 年齢は満年齢である。

区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
他覚的聴力検査	ティンパトリー		15	60	40	10	6	8				139
	DPOAE		9	36	27	8	6	7				93

注) 年齢は満年齢である。



#### (4) 精神科

- ・新規が4名、継続7名であった。養育者のアセスメント及び支援、児と養育者への精神療法、投薬治療が中心である。
- ・2名が転院終了、9名が次年度へ継続。

表3-12 精神科診断区分状況（新規）

（2022年度、単位：人）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)					1	1					2
自閉症(精神遅滞)				2							2
A D H D											0
精神遅滞											0
その他											0
合計	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	4

注) 年齢は学年齢である。

表3-13 精神科診断区分状況（外来延べ人数）

（2022年度、単位：人）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)					2	11					13
自閉症(精神遅滞)				10			8	18		1	37
A D H D											0
精神遅滞							11				11
その他											0
合計	0	0	0	10	2	11	19	18	0	1	61

注) 年齢は学年齢である。

(5) 検査

表3-14 脳波、ABR、心電図

(2022年度、単位：件)

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
A B R	1	3	3							7
脳波										0
心電図										0

注) 年齢は学年齢である。

表3-15 エックス線写真部位

(2022年度、単位：件)

部位	就学前児童							小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
足部				1		1		1				3
脊柱			1	1		1		3	4	5	1	16
股関節			12	4	1	3	3	5	3	1	1	33
下肢			1									1
膝									2			2
手根骨						1						1
肘												0
頸椎						2	1			1		4
アデノイド												0
その他												0
計	0	0	14	6	1	8	4	11	7	7	2	60

注) 年齢は満年齢である。

実人数	年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学生	他	計
	人数			0	13	5	1	6	3	5	4	4	1

(6) 診断書等発行

表3-16 診断書等発行状況

(2022年度、単位：件)

診断書等	小児科	整形外科	耳鼻科	精神科
特別児童扶養手当診断書	58			
障害児福祉手当診断書		2		
身体障害者手帳診断書		13		
精神保健福祉手帳診断書	1			1
補装具意見書		45		
補装具交付証明書		50		
障害証明書				
初診日に関する証明書	9			
私立幼稚園特別支援教育費も関わる診断書	30			
その他診断書	18	2		1
紹介状・回答書	390	9	1	2
おむつ意見書		5		
児童福祉法意見書	161			
生活保護意見書	21			
計	688	126	1	4

## 2 訓 練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育参加、学校連携）、学習会、巡回療育指導、訪問療育指導、関連診療科との協力等の業務を行った。

### (1) 理学療法 (PT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士常勤2名が、施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、運動療法や呼吸理学療法を行っている。
- ・ 初回評価は、PT2名で行った。
- ・ 音楽療法を受けている児童によっては、共同で実施することもあった。理学療法だけでは運動意欲に繋がりにくい児童に対しては、音楽を介したアプローチは有効であった。
- ・ 児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、療育的な視点から生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・ 訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
- ・ 座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
- ・ 新規児童は、29名(2021年度31名)であった。診断名別に見ると運動発達遅滞が全体の44.8%で最も多かった(表3-17)。
- ・ 2022年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は全体で31名(2021年度は24名)であった。内訳は、気管切開7名、酸素吸入5名、胃ろう10名、経管栄養9名であった。このうち、複数のケアが必要な児童は5名であった。
- ・ 訓練対象児118名のうち、通園児は18名であった(そよ風16名、あつた2名)。あいあい組は3名であった。
- ・ 4名に対して、計6回巡回療育指導を他職種とともに行った。
- ・ PT2名がそれぞれひよこグループとたまご教室を担当した。

表3-17 PT診断別状況（新規）

（2022年度、単位：人）

主診断名	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 6ヶ月 未満	0歳 6ヶ月 以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺		1 (0)		1 (0)									2 (0)	6.9
その他の運動障害 (症候群含む)			1 (0)										1 (0)	3.4
後天性要因による 運動障害													0 (0)	0.0
ダウン症候群		1 (1)	3 (0)										4 (1)	13.8
その他の染色体異常				2 (1)									2 (1)	6.9
運動発達遅滞			13 (0)										13 (0)	44.8
知的障害に伴う 運動発達遅滞		1 (0)	1 (0)	1 (0)									3 (0)	10.3
神経・筋疾患							1 (0)						1 (0)	3.4
二分脊椎													0 (0)	0.0
発達障害							1 (0)		1 (0)				2 (0)	6.9
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
その他							1 (0)						1 (0)	3.4
計	0 (0)	3 (1)	18 (0)	4 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (2)	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) 診断名は2023年3月末時点での診断名である。

(3) 再度、処遇を受けた児童も含む。

(4) ( ) 内は、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある児童数をあげた。

表3-18 PT診断別状況(新規+継続)

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2022年度 生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺		1 (0)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	5 (1)	9 (4)	5 (2)	5 (3)	33 (12)	27.7
その他の運動障害 (症候群含む)			5 (1)	2 (0)	4 (0)	4 (1)		7 (2)				22 (4)	18.5
後天性要因による 運動障害							1 (0)	1 (0)			1 (0)	3 (0)	2.5
ダウン症候群	1 (1)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)			16 (1)	13.4
その他の染色体異常			1 (1)	2 (1)	2 (1)			1 (1)	2 (2)	1 (1)		9 (7)	7.6
運動発達遅滞		11 (0)	6 (1)	4 (0)		1 (0)	1 (0)					23 (1)	19.3
知的障害に伴う 運動発達遅滞		1 (0)	4 (0)			1 (0)	1 (0)					7 (0)	5.9
神経・筋疾患						1 (0)						1 (0)	0.8
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害				1 (0)	2 (0)							3 (0)	2.5
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他						1 (0)	1 (0)					2 (0)	1.7
計	1 (1)	17 (0)	21 (3)	14 (2)	11 (1)	10 (1)	6 (1)	15 (4)	12 (6)	6 (3)	6 (3)	119 (25)	100

注) (1) 2022年度内に管理をした全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。「0歳、2022年度生まれ」は、2022年4月2日以降生まれの児童である。

(3) 診断名は、2023年3月末時点(終了児はその時点)の診断名である。

(4) ( )内は、2023年3月末(終了児はその時点)の状態で移動不可～寝返りの段階にある児童をあげた。

表3-19 PT終了等の状況

(2022年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中断	就学	死亡	計
人数	21	0	7	2	0	0	1	31

表3-20 PT月別状況

(2022年度、単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	73	73	75	71	69	79	78	81	80	80	88	86		77.8
延人数	144	131	161	132	118	156	148	144	143	148	140	162	1,727	143.9
月管理数	92	92	90	91	93	96	97	99	102	101	103	102		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.9回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は1.5回であった。

(3) 実際の訓練回数は、週1回～月1回程度である。

## (2) 作業療法 (OT)

- ・個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士2名が施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて行った。
- ・脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対しては機能訓練を実施し、発達障害等の児に対しては評価後、主に感覚統合療法を用い、治療・指導などを行った。
- ・初回評価は作業療法士2名で行った。観察評価に加え目的に応じ臨床観察、視知覚発達検査を実施した。
- ・処方は年間85名出され新規児童は85名であった。待機期間を短縮するため10回クール制を継続した。最大4か月待ちの状態があり、平均すると3か月待ちであった。3月末時点で未開始の児童は17名であった。
- ・新規児童は、ASDの児童が全体の51.7%を占めた。年長児23名27.1%、年中児56名65.9%、年少児5名5.9%、2歳児1名1.2%であった。
- ・2月に開始になった5歳児が1名いた。必要な訓練回数を確保できるよう優先的に予約を入れたが、必要な訓練回数の確保は難しく、就学に向けた準備としては不十分な状況で終えることとなった。
- ・整形外科からの処方はなかった。
- ・10回クール制での要点を絞った目標設定で目標を達成し終了出来た児もいたが、状況に合わせて訓練内容、訓練回数を変更し対応する事が必要な児もいた。
- ・訓練対象児155名のうち、通園児は10名であった(そよ風7名、あつた3名)。
- ・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。
- ・作業療法士1名は、まめグループを担当した。

表3-21 OT診断別状況(新規)

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺					1							1	1.2
後天性要因による運動障害												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群					2							2	2.4
その他の運動障害(症候群を含む)												0	0.0
知的障害	不器用を伴う				3	2						5	5.9
	多動を伴う											0	0.0
境界域					1							1	1.2
A D H D					5		2					7	8.2
L D												0	0.0
A S D	知的障害を伴う			1	3	6	2					12	14.1
	知的障害を伴わない			1	16	12	3					32	37.6
協調運動障害					12	10	1					23	27.1
その他					1	1						2	2.4
計	0	0	0	2	44	31	8	0	0	0	0	85	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)を含む。

表3-22 OT診断別状況(新規+継続)

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺			1	2		1	4	1	3	1	13	8.4
後天性要因による運動障害						1	1			1	3	1.9
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群					2						2	1.3
その他の運動障害(症候群を含む)				1			1				2	1.3
知的障害	不器用を伴う				5	2					7	4.5
	多動を伴う										0	0.0
境界域					1	2					3	1.9
A D H D					5	7					12	7.7
L D											0	0.0
ASD	知的障害を伴う		1		11	12	1				25	16.1
	知的障害を伴わない			4	22	19					45	29.0
協調運動障害			1	17	22						40	25.8
その他				3							3	1.9
計	0	0	2	8	66	66	7	1	3	2	155	100

- 注) (1) 2022年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。  
(2) 年齢は、学年齢である。  
(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)を含む。  
(4) 境界域の児童は不器用をあわせもっていた。

表3-23 OT終了等の状況

(2022年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中絶	死亡	計
人数	50	0	2	2	18	1	7	1	81

表3-24 OT月別状況

(2022年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	58	70	79	86	86	90	94	87	87	94	92	85		84.0
延人数	84	95	113	117	110	111	127	114	116	121	121	125	1,354	112.8
月管理数	79	89	95	101	106	115	119	121	121	115	115	103		

- 注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.3回であった。  
(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.1回であった。



### (3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、言語聴覚士 2 名（常勤 1 名、非常勤 1 名）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
- ・ 評価には、国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査、質問 - 応答関係検査、新版構音検査、ITPA（イリノイ式言語学習能力診断検査）、PVT-R（絵画語い発達検査）、LC スケール、随意運動検査等を用いた。
- ・ 処方は年間 106 名（昨年度 101 名）出され、新規児童は 85 名（昨年度 121 名）であった。児童総数は 147 名（昨年度 186 名）であった。
- ・ 新規児童は、年長児が 50.0%、年中児が 41.1%であった。
- ・ 新規診断別状況では ASD の児童が 38.9%であった。構音障害に分類した児童のうち、ASD をあわせもつ児童が 4 名、ADHD をあわせもつ児童が 3 名であった。
- ・ 訓練開始の待機状況は、年度開始時点で前年度からの待機が 16 名、3 月末時点で未開始の児童は 36 名であった。職員体制上、後半期に新規児童の受け入れを制限したため、年度末にかけて待機期間が延長した。待機期間は最大 4 か月であった。
- ・ 10 回クール制を継続した。児の状況に応じて訓練頻度や回数を調整した。
- ・ 訓練対象児 147 名のうち、通園児は 9 名であった（そよ風 6 名、あつた 3 名）。
- ・ 児童の状況に合わせて言語・コミュニケーション指導を個別に行った他、10～3 月に年長男児 3 名を対象に、月 1 回のグループ訓練を行い、コミュニケーションの相互性やルールに則した言動の獲得を目指した。
- ・ 言語聴覚士 2 名は、週 1 回耳鼻咽喉科の各種聴力検査(BOA・COR・peep-show・プレイオージオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE) を担当した。
- ・ 巡回療育指導を発達相談員とともに行った。
- ・ 訓練延べ件数が例年より減少したのは、職員体制によるものである。

表3-25 ST診断別状況(新規)

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年					高学年
脳性麻痺											0	0.0	
知的障害					2	1	1				4	4.7	
境界域						6					6	7.1	
ASD	知的障害を伴う			1	4	5					10	11.8	
	知的障害を伴わない			1	8	11	3				23	27.1	
L D						1					1	1.2	
A D H D					1	6					7	8.2	
言語発達遅滞					2	1	1				4	4.7	
ダウン症候群				1	1		1				3	3.5	
構音障害				2	4	13	3				22	25.9	
吃音						2	1				3	3.5	
難聴											0	0.0	
場面緘黙						1					1	1.2	
その他						1					1	1.2	
計	0	0	0	5	22	48	10	0	0	0	0	85	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD +境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含む。(5名)

表3-26 ST診断別状況(新規+継続)

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺							1				1	0.7
知的障害				1	4	5					10	6.8
境界域					2	8					10	6.8
ASD	知的障害を伴う			1	8	15					24	16.3
	知的障害を伴わない			2	13	28					43	29.3
LD						1					1	0.7
ADHD					4	8					12	8.2
言語発達遅滞				1	3	2					6	4.1
ダウン症候群				2	1	4					7	4.8
構音障害			1	2	7	14	2				26	17.7
吃音					2	2					4	2.7
難聴											0	0.0
場面緘黙						1					1	0.7
その他					1	1					2	1.4
計	0	0	1	9	45	89	3	0	0	0	147	100

注) (1) 2022年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)を含む。(7名)

(4) 構音障害・吃音に分類した児童の内、16.7%はASD、10%はADHD、3.3%は言語発達遅滞の診断を受けた児童である。

表3-27 ST終了等の状況

(2022年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	43	10	5	8	0	2	37	4	109

表3-28 ST月別状況

(2022年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	73	76	84	83	80	85	56	73	90	83	70	69		76.8
延人数	110	106	116	117	116	99	75	90	119	109	101	100	1,258	104.8
月管理数	79	84	91	95	100	104	108	109	110	104	92	83		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.4回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.1回であった。

#### (4) 生活支援

##### ① 摂食・嚥下機能訓練

- ・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、偏食によって離乳食が進まない子ども、およびその保護者を対象に、リハビリスタッフ5名（PT・OT・ST）と栄養士1名の計6名で評価・指導を行った。
- ・評価・指導は、③通園・療育グループでの給食、⑥摂食訓練会の場において行った。

##### ③通園・療育グループでの給食

- ・通園においては、リハビリスタッフ5名が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。今年度は通園児57名中9名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。あいあい組は4名が対象であった。
- ・療育グループにおいては、ひよこさぎグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、摂食訓練会につないだ。
- ・11月に通園児の食事の様子について目標とアプローチを一覧にしてクラスと共有した。
- ・通園より要望のあった2クラスについては、年度途中にもビデオ検討を行った。

表3-29 給食指導対象児の年齢別状況

(2022年度、単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
通園			1		2	6	9
あいあい組			4				4
計	0	0	5	0	2	6	13

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表3-30 給食指導の月別状況

(2022年度、単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通園	19	5	16	12	10	19	16	11	13	12	17	12	162
あいあい組		4			1	1	1	1	1	1	2	1	13

注) (1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体に対する評価・指導も1件として数えた。

(2) 4・5月は、通園及びあいあい組の全体的評価を中心に実施した。

(3) コロナの感染状況により給食指導を制限または中止したときがあった。

### ⑥摂食訓練会

- ・月2回、年間20回の摂食訓練会を設定したが、感染対策のため1回につき定員3名に限定して行った。
- ・0～5歳の児童17名に対し、個別に評価・指導を行った。
- ・新規児童は10名であった。訓練頻度は、年1～3回や月1回である。
- ・偏食により離乳食が進まない児童が3名おり、生活やあそびの工夫やメニュー・調理の工夫を伝える指導を行った。
- ・個別訓練の枠での評価・指導は0件であった。

表3-31 摂食訓練会実施児の診断別状況

(2022年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						学 齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳 性 麻 痺								0	0
後天性要因による運動障害								0	0
ダ ウ ン 症 候 群	4 (1)	2						6 (1)	35.3
その他の染色体異常		1 (1)						1 (1)	5.9
その他の運動障害			2		1 (1)			3 (1)	17.6
知的障害に伴う運動発達遅滞								0	0
発 達 障 害		2	1					3	17.6
運 動 発 達 遅 滞		2	1			1		4	23.5
計	4 (1)	7 (1)	4	0	1 (1)	1	0	17 (3)	100

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) ( ) 内はその児童のうち、DQ20以下で未定額の児童数をあげた。

表3-32 摂食訓練会月別実施状況

(2022年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	6	2	4	1	5	2	2	3	3	3	2	5	38
延人数	6	2	4	1	5	2	2	3	3	3	2	5	38

## ② 通園療育連携

- ・PT・OT・ST 各 2 名が、それぞれ月 1 回、通園部の子どもの評価や職員の関わり方について、各クラスからの相談内容に助言する形で連携を行った。
- ・セラピストがそれぞれ 1 クラスを担当した。
- ・通園を含めた新規職員向けに PT・OT・ST がそれぞれ研修を行った。

## ③ 学校連携

- ・学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
- ・学校との連携で得た情報は、個別訓練を実施する上でも貴重であった。
- ・学校側からのニーズは高かったため、コロナ対策をしながら可能な限り対応した。
- ・連携は、㉓ケース会、㉔個別訓練見学において行った。

### ㉓ケース会

- ・6 月と 10 月の 2 回実施した。
- ・対象は、小学部 1 年生（3 名）、小学部 3 年生（1 名）、小学部 5 年生（1 名）の計 5 名であった。
- ・PT・OT が学校へ訪問した。
- ・動画を用いて、担当教員と授業の中で可能な取り組みの検討を行った。

### ㉔個別訓練見学

- ・夏休みの個別訓練見学は、PT 見学 17 件、OT 見学 1 件実施した。
- ・担当教員と児童の生活を踏まえた課題を共有し、自立活動の時間に実施する内容の提案を行った。

## (5) 学習会

①保護者向け学習会：実施なし

②職員向け学習会：通園を含む新規職員にリハビリ職についての説明を行った。

通園の 1 ～ 3 年目に向けて PT・OT・ST がそれぞれ学習会を行った。

## (6) 音楽療法 (MT)

- ・個別音楽療法を、週1回(木曜日)、音楽療法士1名が実施した。
- ・興味を広げることや他者を意識し、三項関係を築くことを目的に実施した。
- ・対象は、ASDが64.3%と最も多かった。
- ・新規児童は5名であった。
- ・対象と目的により、母親も一緒に参加するプログラムを行った。
- ・PT訓練やST訓練を受けている児童によっては、担当者と共同で実施することもあった。
- ・8月にあいあい組を対象に集団音楽療法を実施した。

表3-33 MT診断別状況

(2022年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
ASD	知的障害を伴う			4	2	2					8	57.2
	知的障害を伴わない			1							1	7.1
脳性麻痺							1				1	7.1
知的障害											0	0
その他			1	1	1	1					4	28.6
計	0	0	1	6	3	3	1	0	0	0	14	100

注) 年齢は、学年齢である。

表3-34 MT月別状況

(2022年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	8	6	7	7	6	8	8	7	5	8	4	8		6.8
延人数	12	7	10	8	6	13	11	8	6	9	4	12	106	8.8

注) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.3回であった。

## 第4 通園事業

### 1 施設概要

(1) 定 員 57名

(2) 対 象 児 童

0歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子どもを対象にする。

(3) クラス編成 原則として生活年齢を基準に編成する。

(4) 通園形態 親子通園及び単独通園の2形態とする。

(5) 親子通園の種類

① 新規親子通園

新入園児を対象として、4月は週3登園、5月は週4登園を行う。

② 定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う。(月1度は15時までの単独通園。)

(6) 通園バス

- ・通園のための送迎車をワゴン車3台とマイクロバス1台運行する。
- ・自家用車がない等により家庭での送迎が困難な親子に、親子登園期間中、及び水曜親子登園日に通園バスでの送迎を行う。(親子バス)
- ・医療的ケアが必要で、周回送迎車への乗車が困難な親子に、個別送迎を行った。

### 2 療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ててほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっている、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立(律)した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

- ・いのちを守り、いのちをつよくなる子ども
- ・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
- ・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
- ・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
- ・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

- ・現代の子育ての状況や社会福祉の動向などから地域の社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。
- ・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。



#### 一人ひとりの発達を支援する

- ・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子も集団の中でいきいきとあそぶことができる療育づくりをすすめる。
- ・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを療育を通して伝える。
- ・食を通じて(さまざまな形態を意味する)、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
- ・子どもたちが、身近な自然や文化に触れながら生活経験を広げることを大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
- ・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人と共感しあえる関係づくりをしていく。
- ・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

#### 家族とともに

- ・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
- ・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
- ・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
- ・父親、兄弟の交流を通して、仲間づくりをすすめる。

### (3) 療育計画

#### ① クラス編成・登園日

(2022年4月現在)

クラス名	人数	年齢	担任	登園日・登園時間
つばめ組 (進級児・新入児クラス)	7	5歳児 5 4歳児 2	4 (内1名看護師)	・進級児 月・火・木・金(単独通園) 10:00～15:00 水(親子通園) 10:00～13:00 (月に1度単独通園) 10:00～15:00  ・新入児 4月…週3日親子通園 10:00～13:00 5月…週4日親子通園 10:00～13:00 6月…単独・週5日通園へ移行 (進級児と同様)  ※新入児の親子登園は、クラスを半分に分けて人数を減らして行った。(感染対策、および小集団保育を行うため)
にじ組 (進級児クラス)	8	5歳児 8	3	
そら組 (進級児クラス)	8	5歳児 2 4歳児 6	3	
ちょうちょ組 (進級児・新入児クラス)	9	4歳児 7 3歳児 2	4	
めだか組 (新入児クラス)	9	4歳児 1 3歳児 7 2歳児 1	4	
たんぽぽ組 (新入児クラス)	8	3歳児 8	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	8	3歳児 8	3	

#### ② 日 課

時間	単 独 通 園 日	親 子 通 園 日
9:00	通園バス	
9:45	直接登園の子 登園	
10:00	通園バス到着 健康チェック、着替え 水分補給	登園 健康チェック、着替え 水分補給
11:00	おはようのつどい あそび・とりくみ	おはようのつどい あそび・とりくみ
12:00	給食準備 給食	給食準備 給食
13:00	歯みがき・たんれん・着替え 絵本の読み聞かせ	歯みがき・たんれん
14:15	午睡	さよならのつどい 降園
15:00	着替え、水分補給 さよならのつどい 降園	
15:00	通園バス、見守り一時支援(～17:30)	※生活づくり週間 7/11～8/26 登園時間を30分繰り上げ9:30登園、 15:00降園にした。

### ③ 親子登園日（水曜日）の内容

親子あそび クラス毎で、親子で楽しくあそび、親子での経験を広げる（2～3回／月）

親子プール クラス毎に園内の温水プールに入る（1回／6ヶ月）

- 母親研修
- ・近藤直子氏の研修を3回に分け、全保護者を対象に行った。
  - ・親の会の取り組みとして、障がい児者の防災対策について、よかネットあいちの浅野美子氏の研修を行った。
  - ・年長年中児保護者に、就学懇談会を2回実施した。（教育センター職員、名古屋きららネットワーク鉄井史人氏）
  - ・希望する方に就園懇談を2回実施した。（就園までの流れの説明、先輩保護者の話）

親の会 年間4回の役員会、親の会の定例会、総会を2回実施した。

### ④ クラスを越えた保育

年長保育…15名の年長児に、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら年長保育をおこなった。7月に年長親子の宿泊療育、3月に単独宿泊を実施した。（単独宿泊は、12月実施予定だったが3月に延期。）

保護者はサポートブック作成のとりくみを行った。

グループ保育…2～4歳児を対象に、クラスをこえた6つのグループにわかれてグループ保育をおこなった。友だち関係の広がりや、好きなあそびを広げ深めることをねらいにとりくむ。（11～3月の間1～2日／月）

### ⑤ 給食の状況

形 態	人 員
普通食	44
完了～移行食（食材による対応含む）	12
側方への咀嚼～歯茎たべ	2
舌つぶし～側方への保持	2
ペースト～マッシュ（胃ろう対応含む）	5
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	1
アレルギー（対応のみ）	5

※形態を複数対応しているケースも含むので、重複あり

#### <調理の工夫>

てづかみをする／すくう／さす／しっかり噛む…をするために

- ・一つ一つの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをやすくする。
- ・食材を大きめに切り、噛み切る、噛みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをやすくする。
- ・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

食べやすくするために

- ・ゼリー食（ソフト食）にする。
- ・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）
- ・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。
- ・手づかみしやすい大きさや固さにする。
- ・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。
- ・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

### <食器の工夫>

ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。

スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。

コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。

『ジブンデ』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿／深さ／重さ／形など）工夫する。

### <給食指導の状況>

**子ども**—園の給食に栄養士・訓練士（PT2名、OT2名、ST1名）が入り、保育者と共に給食指導をし、それぞれの子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討をコロナ渦でできる対応をした。

- ・食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、コロナ渦でもできることを実施した。
- ・季節や日々の生活の中で食材を見る、触れる・味わうなど『五感』に働きかけることを意識し、子どもたちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを考えてきた。

**保護者**—おたより（月1回）、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、啓蒙した。研修や生活づくり週間を通し、水分、食事を考えるきっかけにした。日々の生活を通し、「共食」の大切さや、「食文化」を意識し、コロナ渦でもできる経験を積み重ねてきた。

- ・子どもの気持ちがみえるようなエピソードや写真を添えたおたよりづくりをする中で、子どもたちの園での様子を伝えるものとしてきた。
- ・クラスの状況に応じ、クッキングを通して、家庭での生活や子どもとの関わりにつなげ、食べることへの興味関心や期待が広がるようなとり組づくりをした。
- ・家庭での悩み（食事づくりや関わりなど）から、親子で登園可能な時には目の前での簡単クッキングや試食（味見）を通し、簡単にできる工夫について啓蒙した。
- ・各クラスや保護者より作り方が知りたい、気になるメニューなどあがった時には、その場での説明やひとつのメニューからいろいろアレンジできるような工夫やポイントを添えたレシピ（副菜、おやつ）を随時発行した。

## <給食委員会>

月1回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい日々の療育につなげてきた。伝統行事や季節の行事、この地方の食文化について学び合い、給食委員として職員・保護者に発信し、親子で経験する（家庭）につなげるきっかけとして、その行事の食べ物等の紹介、メニューに取り入れ、おたより配布してきた。感想等も募り、行事を楽しむきっかけづくりとした。

各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活を考え、療育として食べることを実践していくかをクラスともに考え、積み上げてきた。

年度末に向け、各クラスの人気メニューベスト3！壁新聞を作成した。また、各クラスのまとめの日には人気メニューを中心に、子どもたちの様子を親向けおたよりの発行をした。

⑥ 年間行事

月	日	内 容	内 容
4	5 (火)	入 園 式	そよ風入園のつどい。新入児を2回に分けて式を行う。
	6 (水)	進 級 式 (はじまりのつどい)	そよ風で進級したの親子のつどい。
5	20 (金)	親 子 遠 足	東山動物園 (名養連・名障連招待行事) の遠足を行う。
6	11 (土) 12 (日)	お父さんとあそぼう会	7クラスを2日間に分け (1日目: にじ、そら、ちょうちょ、たんぼぼ、2日目: つばめ、めだか、つくしんぼ)、お父さんと一緒に親子遊びを楽しむ。午後は環境整備と交流会を行う。
	11 (月) ~ 8/26 (金)	生活づくり週間	登園時間を9時30分にし、園でのあそびの充実や、家庭での過ごし方の検討をとりくむ。
7	15 (金) ~ 16 (土)	年 長 親 子 宿 泊	年長児を対象に、親子宿泊を行う。24時間の生活をとらえるとともに、親子で泥んこあそび (陶芸)、花火、母親交流会などとりくむ。15組が参加した。
	2 (火) 4 (木) 5 (金)	海 水 浴	3日間に分散し (1日目: つばめ、にじ、そら 2日目: たんぼぼ、つくしんぼ 3日目: ちょうちょ、めだか)、親子で野間海水浴場にて海でのあそび経験を広げる。父親や兄弟も参加し、すいかわりなどを楽しむ。
8	27 (土)	社会館夏まつり	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止となった。9月に延期した。
	10 (土)	そよ風夕涼み会	クラス毎に親子で夏まつりを楽しんだ。
9	28 (水)	みんなのあそぼう会 ( 3 ク ラ ス )	新入児クラスの前半期療育まとめの行事。たんぼぼ組はコロナのため延期し、後日取り組んだ。クラス単位で保護者に子どもたちのあそびを参観してもらう。
	5 (水)	みんなのあそぼう会 ( 3 ク ラ ス )	進級児クラスの前半期療育まとめの行事。子どもたちの好きなあそびを通して、職員や友だちと一緒にあそぶ楽しさを表現する。他クラスの保護者にも、子どもたちのあそびを参観してもらう。
10	15 (土) 16 (日)	家 族 う ん ど う 会	2日間に分散し (1日目: にじ、ちょうちょ、たんぼぼ、2日目: つばめ、そら、めだか、つくしんぼ、あいあい) 取り組む。宝小学校の体育館をお借りし、親の会と協力して準備をすすめる。兄弟、家族の競技も行い、家族そろって楽しんだ。
	23 (土・祝)	社会館バザー	園内で新型コロナウイルス感染が発生したため、そよ風の参加を見合わせた。親の会は実行委員会に参加し準備していただき、日用品のお店を出店した。当日は職員が変わって出店した。
12	22 (木) 23 (金)	ク リ ス マ ス 会	2日間に分散し (1日目: ちょうちょ、めだか、たんぼぼ、つくしんぼ 2日目: つばめ、にじ、そら) 取り組む。親子でハンドベルを鑑賞し、サンタとの交流を楽しむ。
	11 (祝) 12 (土)	がんばったお祝い会	1年間の療育のまとめの行事。2日間に分散し (1日目: めだか、たんぼぼ、つくしんぼ 2日目: つばめ、そら、にじ、ちょうちょ) 取り組んだ。今年度は感染対策をしながら、他クラスの保護者にも子どもたちの様子を参観してもらった。
3	2 (木) ~ 3 (金)	年 長 単 独 宿 泊	単独でそよ風に宿泊する。感染症などの状況により、3月に延期した。
	17 (金)	おわかれのつどい	園児のみで行う送り出しのつどい。遊戯室に分散してつどい、年長児をお祝した。
	18 (土)	卒 園 式 (親の会お別れ会)	就学児19名の卒園を祝う。年長児親子と職員のみでの参加とし、2部に分けて行う。園庭での送り出しには4歳児親子が参加し園庭で風船飛ばしをした。親の会お別れ会は見合わせた。
	23 (木)	そよ風のつどい	2021年度療育終わりのつどい。感染拡大防止のため、クラスごとで保育証書授与式と親子あそびを行った。



### ⑦ 相談・診療との関わり

- ・入園前健診（3月）、在園児健診（5月、11～12月）を実施した。また、外部歯科による歯科検診（7月）を実施した。
- ・重心児や新入児をはじめとした丁寧な健康管理が必要な児を対象に、月1回～2ヶ月に1回の頻度で、登園前の定期診察を実施した。
- ・呼吸器のある重心児を2名受け入れた。登園日には看護師がクラスに位置づき、保護者と共に子どもの体調面での捉えやあそびへの参加を丁寧にすすめた。また、クラス担任が看護師と共に訪問療育を行ない、継続的な療育を保障をした。
- ・年1回、通園の子どもたちの発達相談を実施し、その前後で心理士と情報交換を行った。
- ・給食指導に週3～4回訓練士が入り、道具操作や摂食指導を行った。
- ・月1～2回、訓練士（PT、OT、ST）が担当クラスを持ち、通園療育に参加した。子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。
- ・医師、保健師、看護師、通園職員で月1回健康会議を実施した。

## 3 家族支援

親子療育	<p>毎週水曜日（親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会）            ※基本的には、全クラスでの親子あそびを再開した。</p> <p>新入児親子療育（4～5月 2・3・4歳児）            ※過去2年のコロナ禍の親子登園の評価から、新入児の親子登園はより小集団で安心して過ごすことを大切に、クラスを2つに分けて少人数での親子親子療育を行う。</p> <p>親子行事（2022年度実施行事は前述）            誕生会（月1回：文化や本物に触れることを大切に、外部講師を招いて、太鼓演奏や影絵など鑑賞する。2つに分散して行った。）            個別療育 新入児（4月）</p>
クラス懇談会	<p>前半期クラス懇談会（5月）            ※新入児クラスは、保育説明会（5月）            後半期クラス懇談会（10月）</p>
懇談等	<p>個人懇談（各家庭年2回 5～6月、11月に実施）            家庭訪問（新入児4月、進級児5月）</p>
全体研修	<p>・子育てについて（新入児向け2回、進級児向け1回）（近藤直子氏）</p>
クラス研修	<p>・就園懇談会（職員、就園児親）            ・就学懇談会（教育センター、学校教員、就学児親）            ・サポートブック作成会（担任）            ・排泄について（担任）            ・生活リズムについて（担任）            ・着脱について（担任）            ・食えることと感覚について（栄養士）            ・感覚について（担任）</p>

## 4 見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて15時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大10名、最長17時30分まで受け入れを実施した。

### 月別利用実績

月	開所日	実利用者人数	述べ利用者数	日平均
4月	14	6	37	2.6
5月	14	7	33	2.4
6月	15	6	42	2.8
7月	12	8	34	2.8
8月	12	9	27	2.3
9月	16	7	37	2.3
10月	14	7	35	2.3
11月	14	12	36	2.6
12月	15	10	39	2.6
1月	14	10	42	3.0
2月	15	15	51	3.4
3月	11	15	35	3.2
合計	166	—	448	2.7

(登録者数31名、利用申込23名)

注) 4-5月は進級児のみ対象、新入児は6月より対象とした。



## 5 2022年度まとめ

### (1) 療育づくり

2022年度は、2歳児1名を含む新入児28名、進級児29名57名でスタートした。重症心身障害で常時医療的ケアを必要とする子ども2名が入園し、1年を通してクラスの療育計画に基づく定期的な訪問療育を実施し、継続的な療育保障をすすめた。

コロナ禍の療育が続く中、子どもたちの経験を狭めないよう、クッキングや他クラス交流など対策を講じながら行った。陽性者の発生によりクラス閉鎖は度々あったが、職員が抗原検査をして3日目から勤務できるようになったことで、オンライン保育や家庭訪問、電話による状況把握などを毎日行なうことができた。誕生会では2か月連続で同じ講師を招いて、影絵や和太鼓など文化や本物に触れる経験を分散して行った。

### (2) 家族支援

水曜日の親子登園は、2年ぶりに分散することなく、コロナが流行した時期を除き毎週行なった。保護者と職員が子どもの姿を通して共通理解をし、目標や関わりを一致させていく機会として、親子療育は重要であり、職員と保護者の関係づくりも一歩前進できた。また、保護者間の仲間づくりも徐々にすすめられた。

困難事例としては、職員の子どもに対する関わりや保育教材、環境について細かく要望され、園として対応した。5月には担任替えを行ったが、担任職員の精神的負担感がとても大きかった。また、外国籍家庭への支援や在留ビザが失効した親子へは、他機関と連携をして支援をすすめた。園での怪我が続いたことによる登園拒否と、保護者間のトラブルが生じた件では、園としての対策を示し、保護者間の話し合いをしながら登園再開につながった。身体的外傷や子どもからの発信もあり虐待が疑われる家庭へは、担任と保護者の関係を維持し話を聞きながら慎重に対応した。

保護者研修は、近藤直子氏による子育ての研修を、進級児保護者、新入児保護者とテーマを変えて行なった。就学に向けては名古屋きららネットワークの鉄井先生による就学懇談会を行ない、現場の先生の話がとても具体的で好評だった。クラス研修は、新入園児へのミニ学習会は定着しているが、子ども理解を深めるための研修（自我、コミュニケーション、感覚統合など）や、保護者の子育てや思いを共有する交流の場は少なくなっている。

### (3) 保育者集団づくり

3人の公選制主任を中心に、それぞれの良さを発揮した職員集団作りが進んだ。行事に向かうリーダー会などであそびづくりの悩みが出されることも多くあったが、主任はクラス任せにせず悩みや思いにしっかりと付き合っていた。

事故やヒヤリハットなど多くあった。小さなケガも事故ととらえ改善策を考えて対応することが定着していることは大切なことだが、自分たちの保育を狭くしている一面もある。高いところから転落したので、机や椅子を保育室内に置かない、物を投げるのでおもちゃを置かない、など、保育室から物が減っている現状から、今一度子どもの保育環境や保育者の関わりがどうあったらいいのか、事故も含めた様々な出来事から立ち返って考える必要性を感じてきた。療育の視点を通園部として一致させるため、子どもに保障したい生活等を今の子どもたちの生活、親の実態から、学びも含め共通の視点の整理につなげて行くことが課題。

## 6 児童の状況

表4-1 障害種別状況

2023年3月末現在

障害種別	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害			7	4	5	16
自閉症			4			4
自閉症+知的障害			8	9	6	23
知的障害+肢体不自由			2		1	3
肢体不自由			1			1
重症心身障害		1	1	2	2	6
言語発達障害			2			2
計		1	25	15	14	55

表4-2 障害程度別状況

障害程度	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度		1	1	3	4	9
重度			2		3	5
中度			8	7	4	19
軽度			14	5	3	22
非該当						
計		1	25	15	14	55

注) (1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。  
 (2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表4-3 手帳所持状況 愛護手帳

愛護手帳	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1度		1	1	2	3	7
2度			1	1	3	5
3度			8	6	5	19
4度			10	5	2	17
未所持			5	1	1	7
非該当						
計		1	25	15	14	55

表4-4 身体障害者手帳

身体障害者手帳		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
I種	1級		1	1	2	4	8
	2級			1	1		2
	3級			1	1		2
	4級						
	5級						
	6級					1	1
II種	1級						
	2級						
	3級						
	4級						
	5級						
計			1	3	4	5	13

表4-5 区別状況

2023年3月現在

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区		1	3	8	4	16
緑区			22	7	10	39
港区						
計		1	25	15	14	55

表4-6 通園日数

通園日数	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1日				
2日				
3日				
4日				
5日	1	25	15	14

表4-7 月別児童数

入退園	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在園	57	57	57	57	57	57	56	56	56	56	55	55
月末在園	57	57	57	57	57	56	56	56	56	55	55	55

表4-8 在園期間

在園期間	児童数	平均在園期間
1年未満	0	1年8ヶ月
1年以上2年未満	28	
2年以上3年未満	17	
3年以上4年未満	9	
4年以上5年未満	1	
5年以上6年未満	0	
計	55	

表4-9 卒退園児の進路先と平均在園期間

卒園	特別支援学校	肢 体	3	8	在園期間	卒 園	退 園																																																
		知 的	5					小学校		支援級	5	6	1年未満			通常級	1	1年以上2年未満	1	7	退園	保育園(公)		5	6	2年以上3年未満	4	1	保育園(民)		1	3年以上4年未満	8		幼稚園(公)		0	4年以上5年未満	1		幼稚園(民)		1	5年以上6年未満			転居		1	1	計				
小学校		支援級	5	6	1年未満																																																		
		通常級	1		1年以上2年未満	1	7																																																
退園	保育園(公)		5	6	2年以上3年未満	4	1																																																
	保育園(民)		1		3年以上4年未満	8																																																	
	幼稚園(公)		0		4年以上5年未満	1																																																	
	幼稚園(民)		1		5年以上6年未満																																																		
	転居		1		1	計																																																	
					平均在園期間	2年6ヶ月	1年2ヶ月																																																

## 第5 地域ケア事業

### 1 地域連絡調整

表5-1 地域連絡調整

派遣先	内容	派遣職員	派遣頻度
南保健センター	のびのび教室	保育士・ケースワーカー	月1回(8.9月中止)
緑保健センター	みどりっこ教室	中止	
緑保健センター徳重支所	ちゅーりっぷ教室		

表5-2 連絡調整会議

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南区 障害児療育連絡会	6/2 ブロック会議 各機関の新年度状況/年間 計画 9/22 連絡会 全体報告・地域別交流会 3/7 南区・緑区合同研修会 「気になる子の行動理解と 保護者支援」 講師：山下直樹氏	保健センター 公立保育園 民間保育園 民間幼稚園 認定こども園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 通園部副園長 ケースワーカー
緑区 障害児療育連絡会	6/28 ブロック会議 各機関の新年度状況/年間 計画 11/4・12/20 連絡会 ※2回に分け開催 全体報告・テーマ別交流会 3/7 南区・緑区合同研修会 内容：南区の欄参照	保健センター 公立保育園 民間保育園 公立幼稚園 民間幼稚園 認定こども園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 相談診療副部長 通園部副園長 ケースワーカー 心理 保育士
南区子育てネット	3か月に1回幹事会 事業所現況報告 子育てまつり～エリア別開催	民生子ども課・子育て 支援センター・図書館・ 児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	保育士
緑区子育てネット	3か月に一回幹事会 事業所現況報告・企画調整 赤ちゃんまつりの開催～分散 開催	民生子ども課・子育て 支援センター・図書館・ 児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長

表5-3 保健センター連絡会

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南保健センター 連絡会	2023.2.10 そよ風事業・ 地域の母子保健の現状	南保健センター 南部地域療育センター	ケースワーカー 発達相談員 グループ担当
緑保健センター 連絡会		中止	

表 5 - 4 事業所説明会

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
事業所説明会	南・緑区保健センター 事業所説明会	中止	
	2022.7.22 南ブロック医療的ケア児コー ディネーター連絡会	南ブロック相談支援専門員 南区基幹相談支援センター 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー 相談支援専門員
	2022.9.2 南ブロックこども応援委員会 事業所説明会	南ブロックスクール ソーシャルワーカー スクールカウンセラー	ケースワーカー 相談支援専門員
	2022.9.9 緑区通級教員研修	緑区通級教員 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー 発達相談員

その他：相談支援事業所、児童発達支援事業所に対して、事業所説明行う。(7件)

表 5 - 5 親の集い

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南保健センター 発達に支援が必要なお子さん を持つ親の集い	2022.5.20 7.11 11.18 講話・質疑応答	南保健センター 南部地域療育センターそよ風 手をつなぐ育成会・講師	ケースワーカー
緑区 子どもの発達が 気になる親の集 い	2022.7.4 9.26 11.7 12.5 講話・座談会 オンライン	緑区障害者基幹支援センター 南部地域療育センターそよ風 緑保健センター・講師	ケースワーカー

表 5 - 6 いこいの家事業

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
緑区 いこいの家事業	2022.10.3 そよ風について 講話	緑区いこいの家(葡萄の木) 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー
	2023.3.6 就園・就学について		ケースワーカー 発達相談員
南区 いこいの家事業	2022.5.16 10.17 親子遊び	南区いこいの家(mimi) 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー グループ担当
	2023.2.20 座談会		ケースワーカー 発達相談員

#### ケース会議・懇談会等

民生子ども課・相談支援事業所が主催するケース会議に出席した。(6件)

そよ風主催は2件。出席者はケースワーカー・相談支援専門員・発達相談員・子ども応援委員会・保健師・児童発達支援事業所。

## 2 巡回療育指導

保育園又は幼稚園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭支援に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みがあれば当センターに受診歴のない児童についても、助言及び指導を行った。

〈対象児〉

- ・児童発達支援センターから保育園・幼稚園へ就園した児童及び小学校に就学した児童
- ・保育園・幼稚園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）

表5-7 月別巡回療育指導状況

(2022年度、単位：件、人)

	区 分	4月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	計
相 談 診 療 部	件 数	1	5	13	9	12	8	2	1	51
	人数(既受診児)	1	7	9	6	4	7	1	1	36
	人数(未受診児)		4	22	16	22	11	3		78
通 園 部	件 数	4	1							5
	人数(既受診児)	4	2							6

注) (1) 4月に1件、6月に2件、10月に1件の計4件、保護者からの申し入れによる巡回療育指導を実施した。(保育園2ヶ園、こども園2ヶ園)

(2) 新型コロナウイルス感染症等の理由により6件実施を中止した(保育園4ヶ園、幼稚園2ヶ園)。

### 保護者申込み巡回実施件数

区 分	4月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
件 数	1	2			1			4
人数(受診児)	1	2			1			4

注) 保育園2ヶ園、こども園2ヶ園

表5-8 巡回療育指導施設数

(2022年度、単位：カ所)

区 分	南 区	緑 区	港 区	天白区	計
保 育 園	5	28		1	34
幼 稚 園	2	3			5
こども園	5	6			11
学 校	1	4	1		6
計	13	41	1	1	56

注) 保護者からの希望により区外への巡回を行った。

表5-9 巡回療育担当スタッフ

(2022年度、単位：件)

ケースワーカー・保健師	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	通園スタッフ	看護師	その他	計
21	51	4	15	13	2	8	0	1	115

表5-10 児童の状況

(2022年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学校	高校生	計
知的障害					3	1	1			5
自閉症			2	4	4	4	1			15
自閉症+知的障害				5	2		5			12
肢体不自由										
肢体不自由+知的障害		1								1
言語発達障害等			2	3	1	1				7
重症心身障害							2			2
未決定										
その他					1					1
計		1	4	12	11	6	9			43

### 3 訪問療育指導

- ・重症児に対し（コロナの制限がない時期は）事前に職員や児の体調確認を丁寧に行った上で継続的に訪問療育を行った。
- ・継続的な訪問児童は2名。その他支援の目的に応じて訪問する専門職を検討し、実施した。

〈対象児〉

- ・重症心身障害の児童
- ・児童相談所との連携が必要な児童
- ・通所が困難な児童
- ・早期受診の児童
- ・療育上家庭での指導が必要な児童

表5-11 訪問療育指導月別状況

(2022年度、単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数				1		1	1	2	1		1	2	9
延べ人数				1		1	1	2	1		1	2	9

表5-12 訪問療育担当スタッフ

(2022年度、単位：件)

ケースワーカー	リハビリ	療育スタッフ(保育士)	看護師	相談支援専門員	発達相談員	計
8	4	1	1	6		20

表5-13 訪問療育児童の状況

(2022年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
脳性麻痺+知的障害			1					1
その他保健	1							1
重 心		1		1				2
計	1	1	1	1				4

注) (1) その他小学生まで  
(2) 年齢は学年齢である

## 4 通園部アフターケア

### あそび虫クラブ

2022.5月～2023.3月の間、月に1回土曜日の午前中に、そよ風を卒園して、特別支援学校または特別支援学級に在籍している小学4年生～高校3年生の児童を対象に、子どもたちの興味や余暇を充実させることをねらいに、学年齢に分かれて3つのプログラムを実施した。夏のプログラムも、新型コロナウイルス感染に配慮しながら、2泊3日小那比キャンプ、重心プログラム、海水浴、兄弟キャンプなど行った。

小学1年～3年生は、親子で様々な経験を広げることを目的にリトルあそび虫を実施した。今年は、小学4年生～6年生の重症心身障害児の親子の受け入れに拡大した。

表5-14 リトルあそび虫（小学親子）

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/25	トランポリンハウス	9組	1/21	陶芸体験	16組
7/30	海水浴*	11組	3/11	愛知牧場	13組
9/17	クッキング（五平餅）	13組			

表5-15 小学4年生から高校3年生のサークル活動

	太鼓サークル	クッキングサークル	陶芸サークル	備 考
登録数	10名	3名	3名	・11月は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止した。
5月	8	3	2	
6月	8	2	3	
9月	8	3	1	
10月	7	1	2	
11月	中止	中止	中止	
12月	8	3	2	
1月	8	2	2	
2月	9	2	3	
3月	9	3	3	



## 長期休暇プログラム

あそび虫クラブは岐阜県郡上市小那比の法人野外活動センターにて2泊3日キャンプを実施した（デイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風と合同）リトルあそび虫は、野間海岸で親子海水浴を行なった。重心プログラムは、そよ風で1日プログラムを実施した（7月はコロナで延期し、3月に行う）。兄弟プログラムは、法人野外活動センターで1泊2日のキャンプを行った。

## 5 アフターケア

表5-16

とりくみ	実施日	対 象	数	内 容
アフターをつどい	4～5月	・ 転園児保護者 ・ 就学児保護者 ・ 転園し1年生になった保護者	3名 7名 5名	近況を報告し、交流する。
19歳のつどい	6/25	2022年度 19歳を迎えた親子	13組	前年度延期にした18歳のつどいを19歳として実施。在園中のビデオや思い出を語り、子育てを振り返る機会にした。
18歳のつどい	1/21	2022年度 18歳を迎える子	10組	これまでの療育歴や子育てを振り返り、18歳までの区切りとした。懐かしい再会とともに、思い出を振り返る機会とした。

## 6 そよ風広場

土曜日の午前中に、そよ風通園・デイサービスACT・デイサービスみどりそよ風の児童発達支援から転園した就学前の親子を対象に、親子で楽しく休日を過ごすこと、経験を広げること大切に様々なプログラムを取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プログラム	参加親子	実施日	プログラム	参加親子
5/28	潮干狩り（西尾）	5組	10/22	芋ほり（ジョイフルファーム鶉の池）	5組
6/25	おしゃべり広場（保護者交流会／ボールプール）	14組	1/21	親子でパン作り（講師 那須田宏氏）	中止
7/23	どろんこプール（ジョイフルファーム鶉の池）	3組	2/18	親子でパン作り（講師 那須田宏氏）	7組
9/17	トランポリンハウス	11組	3/11	いちご狩り（ジョイフルファーム鶉の池）	5組

## 7 兄弟プログラム（レインボーサークル）

2022年度通園部に通っている子ども及び、以前に通園部に通っていた小、中学生を対象とし、2ヶ月に1回集ってあそびなどのプログラムを行った。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
5/28	ドッチボール、キャンプ話し合い	11名	10/22	運動会	12名
8/6	キャンプに向けたサマースクール	14名	12/17	クリスマス会	19名
8/11 ～12	おなびキャンプ	15名	2/18	ホットドック作り	14名

## 8 施設・プール開放

- ・同法人内のデイサービスACT、デイサービスみどりそよ風、発達センターあつた、活動センターねーぶる、ちどり児童会にも開放し、年54回のべ462名が利用した。
- ・そよ風に関わる小、中学生の親子を対象に木曜日にプール開放をし、年10回のべ28名が利用した。

## 9 地域啓発・ボランティア育成

- ・例年行っている、夏まつり、は新型コロナウイルス感染予防のため中止になる。社会館バザーは規模を縮小して行った。ボランティアは、2名を通園保育で受け入れた。

## 第6 児童デイサービス

### 1 デイサービスACT

(児童発達支援事業所と放課後等デイサービスの多機能型事業所)

(1) あいあい組 (児童発達支援：週2日登園、通園待機児を含む2歳児クラス)

#### ① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
乳 幼 児	契約数	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	-	
	開所日数	6	9	9	5	6	7	8	7	8	6	7	83	
	利用者数	15	23	26	14	23	30	35	32	34	22	23	24	301
	平均利用	2.5	2.6	2.9	2.8	3.8	4.3	4.4	4.6	4.3	3.7	3.3	4.8	3.7

- ・週2回、(月、木)で実施。
- ・通園待機児5名と週2日療育を希望する1名の親子を対象とした。(10月より通園待機児1名開始)
- ・視覚障害の子どもにわかりやすい環境づくりをすること、運動発達のゆっくりな子どもたちが「じっくり・たっぷり・繰り返し」あそぶことを大切にしたい。

#### ② 児童の状況

表6-1 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	2
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	1
知的障害+肢体不自由	0
肢体不自由+知的障害	1
重症心身障害児	0
肢体不自由児	0
自閉症	1
計	5

表6-2 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I種	1級	0
2度	1		2級	0
3度	2		3級	0
4度	1	II種	1級	0
未所持	0		2級	0
非該当	1		3級	0
計	5			

表6-3 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	3
保育園(公立)	3
保育園(民間)	0
幼稚園	1
県外へ転居	0
在宅	0
計	7

## (2) デイサービス ACT (放課後等デイサービス)

対 象 名古屋市在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～高校3年生。(全員が南区、緑区であった)

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日… 14:30～17:30  
土曜日(月1回)・学校長期休業期間 … 9:30～15:30

### ① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	28	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	29	—
開所日数	17	21	23	19	18	22	23	22	18	19	20	19	241
利用者数	98	146	149	128	99	146	163	154	111	125	133	122	1574
平均利用	5.8	7.0	6.5	6.7	5.5	6.6	7.1	7.0	6.2	6.6	6.7	6.4	6.5

### ② 契約状況

(単位:人)

曜 日	利用者登録数	利 用 者 学 年											
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
月曜(中高生)	6		1					1	3		1		
火曜(小学生)	9	1	1	2	2	3							
水曜(小学生)	10			2	2	6							
木曜(中高生)	6		1			1		1	1	1	1		
金曜(小学生)	10	1	1	2	3	3							
第2・4土曜 (小中高生)	12				1	5		1	2	1	2		

\*契約者実数 30名

### ③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは、感染に注意し2泊3日で行った。8名の参加があった。
- ・社会館バザーでは、子どもたちと企画運営の準備をし、ゲームコーナーの出店をした。
- ・春休みには、中学3年生1名の卒会記念としてカラオケの外出を取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。

## 2 デイサービスみどりそよ風

### (児童発達支援事業所と放課後等デイサービスの多機能型事業所)

#### (1) くじらグループ (児童発達支援：2日登園、2歳児)

##### ① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
乳 幼 児	契約数	8	8	8	8	8	6	6	6	6	7	7	-	
	開所日数	6	8	8	8	7	8	9	10	7	8	8	93	
	利用者数	35	57	56	29	34	51	44	56	42	44	41	36	525
	平均利用	5.8	7.1	7.0	3.6	4.9	6.4	4.9	5.6	6.0	5.5	5.1	6.0	5.7

- ・週2回、(火・金)で実施。
- ・週2日療育を希望する9名の親子を対象とした。
- ・親子でたっぷりとおそぶことを通して、お母さん大好きな気持ちが育った。自我が育ち、大人からお友だちへの関心が膨らみました。

##### ② 児童の状況

表6-4 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	2
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	3
知的障害+肢体不自由	0
肢体不自由+知的障害	0
重症心身障害児	0
肢体不自由児	0
自閉症	3
言語発達遅滞	1
計	9

表6-5 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I種	1級	0
2度	0		2級	0
3度	0		3級	0
4度	4	II種	1級	0
未所持	2		2級	0
非該当	3		3級	0
計	9		計	0

表6-6 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	3
保育園(公立)	2
保育園(民間)	1
幼稚園	3
県外へ転居	0
在宅	0
合計	9

## (2) みどりそよ風（放課後等デイサービス）

対 象 名古屋市内在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～  
中学3年生。（全員南区、緑区であった。）

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30～17:30  
土曜日（月1回）・学校長期休業期間 … 9:30～15:30

### ① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27	—
開所日数	17	21	23	19	17	21	21	21	20	19	18	18	235
利用者数	108	132	158	114	94	122	126	125	116	109	115	115	1434
平均利用	6.3	6.2	6.8	6.0	5.5	5.8	6.0	5.9	5.8	5.7	6.3	6.3	6.1

### ② 契約状況

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
月 曜	10	0	1	4	1	2	2	0	0	0
火 曜	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0
水 曜	9	0	2	4	1	2	0	0	0	0
木 曜	10	1	3	3	1	1	1	0	0	0
金 曜	4	0	1	1	0	1	0	1	0	0
土 曜	7	0	0	4	1	1	1	0	0	0

### ③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは、感染に注意し2泊3日で行った。7名の参加があった。
- ・春休みには、小学6年生2名の卒業記念として外出プログラム（南知多グリーンバレー）を取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。

## 第7 障害児相談支援事業所

### 障害児相談支援事業所そよ風

- ・相談支援専門員3名（専従1名、兼務2名）で基本相談、計画作成、モニタリング等を実施してきた。
- ・管理している対象者の年齢層は0歳～13歳（中学校1年生）と幅が広がっている。地域への移行もすすめてきているが一定数9歳児以降も計画相談を受けている。
- ・基本相談、支援実績等特別大きな変動はない。

表7-1 管理数

（単位：人）

居住区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	11歳児	12歳児	合計
南区	1	9	4	11	15	8	4	3	3	3	1	1	1	64
緑区	1	16	33	38	14	25	11	7	12	5	2	3	0	167
港区				1	1	1		1						4
計	2	25	37	50	30	34	15	11	15	8	3	4	1	235

表7-2 支援実績

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計 画 作 成	4	28	24	16	7	32	16	12	25	28	15	15	222
本 計 画 作 成	81	22	16	26	6	2	16	18	19	3	4	11	224
モ ニ タ リ ン グ	7	10	24	10	11	19	46	25	35	14	9	8	218
家 庭 訪 問	47	49	67	36	21	59	81	61	74	48	35	54	632

\*モニタリング時に計画変更になることもあるので必ずしも実績が一致するものではない。

表7-3 基本相談

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家 庭 訪 問	19	18	26	11	2	2	9	15	6	2	7	13	130
来 所	7	6	6	8	5	6	6	8	5	7	14	7	85
そ の 他	76	78	96	64	70	90	75	75	56	64	79	58	881

表7-4 基本相談の内容

（単位：件）

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家 族	子どもの余暇等	そ の 他
763	90	122	372	565	3	165

\*重複計上

\*その他とは上記カテゴリーに当てはまらないと判断した内容のものになる。

表7-5 会議等

	開催日	構成メンバー	参加職員
障害児相談支援運営連絡会	2022. 6.24 2022. 8.31 2022.11.11 2023. 3.13	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会 相談支援連絡会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	27回 (必要に応じて開催・参加)	関係機関	相談支援専門員



## 第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業

2021年8月より、名古屋市より委託を受け医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業がはじまりました。

### 〈事業内容〉

- (1) コーディネーターに対するスーパーバイズ
- (2) コーディネーターと医療、保健、福祉、教育等の関係機関等の連携促進
- (3) 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援
- (4) コーディネーター養成にかかる協力
- (5) 地域における社会資源の開発
- (6) 周知広報
- (7) 関係会議への出席 ほか

2022年度の事業実績は以下の通りです。

### 1. コーディネーターに対するスーパーバイズ

(2022年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	3	9	20	7	3	17	14	12	9	10	5	10	119
訪問相談		1	4		2	5	7			3	4	1	27
来所相談	6	4		2		2	3			2	1	2	22

### 2. 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援

(2022年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	6	9	8	6	1	17	22	17	19	23	20	10	158
訪問相談	1	4	1	5				4	4	5		6	30
来所相談	2	1				2	4	3	2		4	2	20

### 3. 周知・広報

(2022年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療機関	1	1	5	3			3	1	1	2		1	18
学 校	4											1	5
訪問看護・リハ事業所	1	2	3		2		1	1					10
療育センター等								1		1		1	3
障害福祉サービス事業所		1	3	3	1	1	1	1	2	4	3	2	22
相談支援事業所			2	1	1		2	1		1	2	1	11
保健センター			1					1					2
その他関係機関				1	3	2		2		3		3	14

注) その他の関係機関は「子ども応援委員会」「保育施設」「教育委員会」「児童相談所」「なごや福祉プラザ」他

### 4. 関係機関調整・会議等

#### 〈関係機関調整〉

退院時カンファレンス 担当コーディネーターと同行

サービス担当者会議

#### 〈会議・研修等〉

会議・研修名	主 催
医療的ケア児等コーディネーター養成研修	愛知県・名古屋市
各ブロック医ケア児支援コーディネーター交流会	だいでう医療的ケア児支援センター
だいでう・にじいろ医療的ケア児サポート研修会	だいでう医療的ケア児支援センター
市内各区自立支援連絡協議会部会	各区基幹相談支援センター

資料 センター利用者数の10年間の推移（2013年度～2022年度）

新規相談件数（区別）

（単位：件）

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
南 区	118	118	103	105	127	126	144	111	132	114
緑 区	278	342	273	290	327	291	284	309	330	300
熱田区	44	10	0	0	0	0	0	0	0	0
港 区	9	5	9	5	7	7	4	2	8	11
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	450	475	385	400	461	424	432	422	470	425

新規相談件数（年齢別）

（単位：件）

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
0 歳	12	13	16	23	13	16	12	12	7	8
1 歳	38	50	33	28	47	47	42	47	65	56
2 歳	132	148	113	87	154	127	143	151	146	120
3 歳	149	158	113	135	132	115	121	97	134	103
4 歳	53	43	49	58	56	59	53	55	62	72
5 歳	51	51	53	51	42	49	46	48	43	52
6 歳	13	12	8	18	13	11	15	12	13	14
小学校低学年	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	450	475	385	400	461	424	432	422	470	425
1.2歳児初診					221	213	220	235	258	223
合診					38	43	37	36	36	28
一般初診					202	168	175	151	176	174

継続相談延べ件数

（単位：件）

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件 数	1063	1175	1123	1137	1063	1000	1010	1033	1025	986
実人数	798	860	824	816	806	774	773	802	840	830

## 療育グループ延べ参加人数

(単位:人)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
就園前グループ	4132	3760	3860	3172	2960	3411	2797	1824	2122	2627
並行グループ	585	679	564	581	561	397	412	381	451	420
計	4717	4439	4424	3753	3521	3808	3209	2205	2573	3047

## 小児科診察件数

(単位:件)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
初診(実)	450	475	385	400	461	424	432	422	470	425
再診(のべ)	255	262	321	362	453	563	563	749	778	804
計	705	737	706	762	914	987	995	1171	1248	1229

## 整形外科科診察件数

(単位:件)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
初診	54	47	47	55	51	44	45	44	40	43
再診	988	922	900	587	942	538	564	525	493	485
計	1042	969	947	642	993	582	609	569	533	528

## 精神科診察件数

(単位:件)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
初診	9	12	4	4	4	4	2	2	0	4
再診	42	71	75	55	69	77	57	62	62	57
計	51	83	79	59	73	81	59	64	62	61

## 耳鼻科診察件数

(単位:件)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
初診	156	217	184	149	90	190	145	110	121	180
再診	478	488	442	274	178	223	262	125	128	85
計	634	705	626	423	268	413	407	235	249	265

## 理学療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件 数	2,891	2,531	2,436	2,411	2,239	1,953	1,935	1,983	1,803	1,727

## 作業療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件 数	1,832	1,802	1,605	1,849	1,689	1,691	1,425	1,400	1,374	1,354

## 言語聴覚療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件 数	1,678	1,301	1,813	1,532	1,866	2,034	1,578	1,538	1,506	1,258

## 巡回療育実施件数（職員派遣数）

(単位：人)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
件 数	146	124	140	115	125	109	111	50	102	115

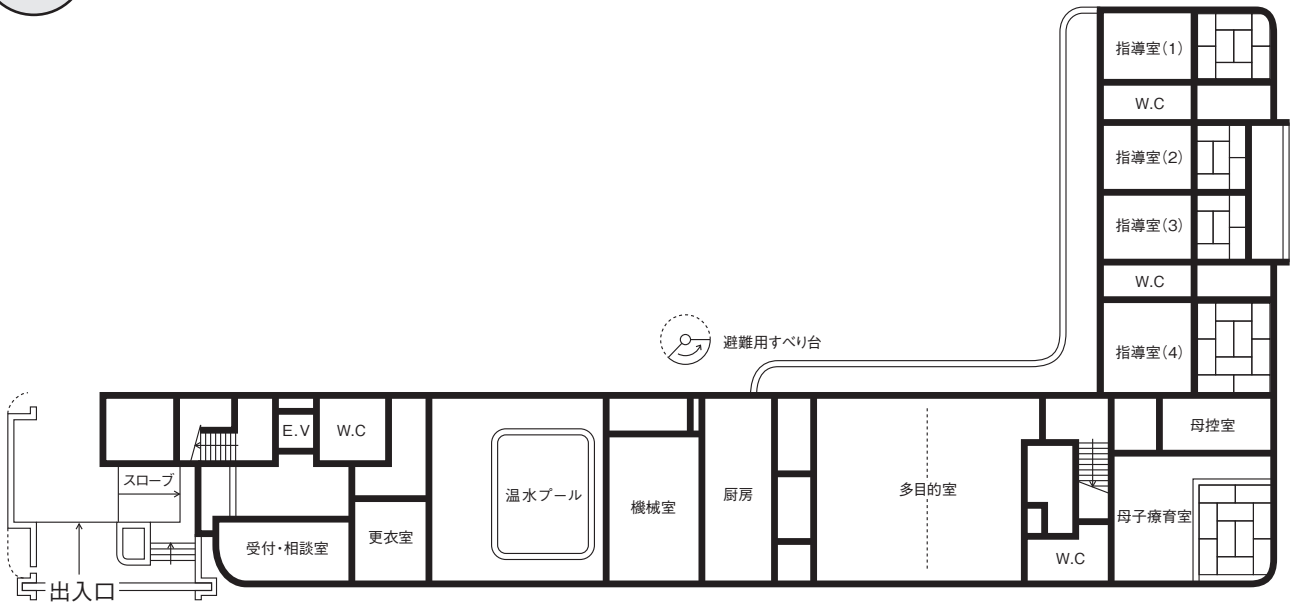
## 訪問件数

(単位：件)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
回 数	19	26	14	10	21	22	9	24	20	9

# 平面図

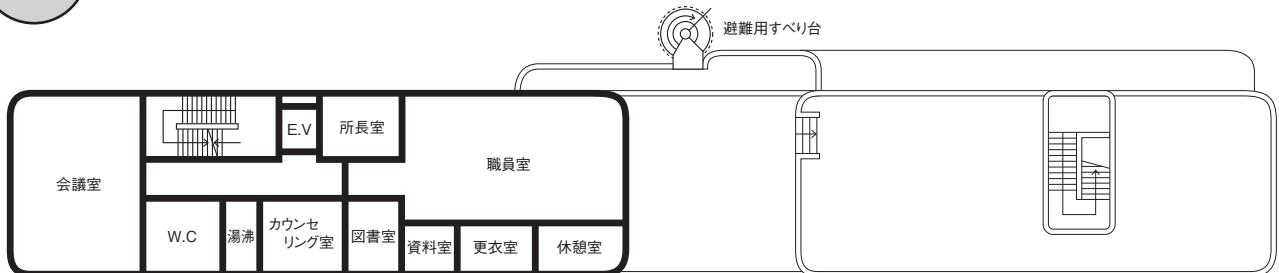
## 1階

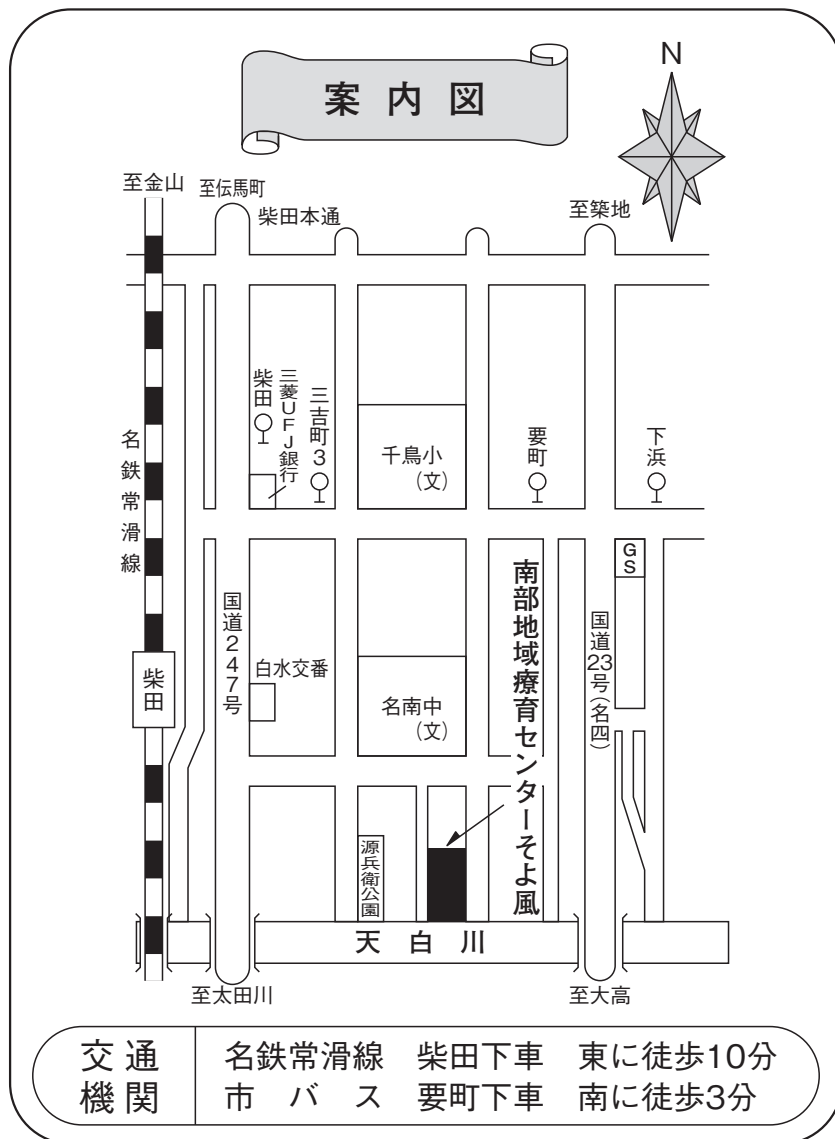


## 2階



## 3階





2023年7月発行

発行者 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館  
**南部地域療育センターそよ風**  
 〒457-0805 名古屋市南区三吉町 6-17  
 TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、  
すべての子どもの成長発達を願い  
早期療育、地域療育をすすめます。